

第 1 章

沿 革

1 水道事業のあゆみ

- (1) 水道事業のあゆみ
- (2) 旧簡易水道事業(福岡町地区)のあゆみ

2 水道事業の概要と認可

- (1) 水道事業の概要と認可
- (2) 旧簡易水道事業(福岡町地区)の概要と認可

第 1 章 沿 革

1. 水道事業のあゆみ

(1) 水道事業のあゆみ

年 月 日	事 項
昭和	
3. 3. 30	水道敷設案を市議会へ提案し、全会一致をもって可決された。
3. 11. 6	水道布設認可。 （計画給水人口 80,000 人、1 人 1 日給水量 111L、昭和 3 年度～昭和 6 年度、総工費 135 万円）
3. 12. 1	水道布設起工式。
4. 1. 1	水道創設工事の実施機関として、市水道部及び水道敷設委員会を設置。
5. 7. 15	主要部工事が完成し、配水池までの仮通水を行う。
6. 6. 22	水道通水式典を挙行し、ここに永年に亘る市民待望の歴史的給水が開始された。
7. 10. 1	水道部を市長事務局に属する水道課として発足。
18. 8.	伏木拡張事業計画を策定。（給水人口 30,000 人 1 人 1 日最大配水量 200L、昭和 18 年～昭和 20 年度、総事業費 85 万円）
19. 2. 2	伏木地区拡張事業（第 1 期拡張事業）認可。 （計画給水人口 110,000 人、1 人 1 日最大給水量 200L、1 日最大給水量 22,000 m ³ ）
23. 12. 1	市役所機構の改革により部制が採られ、水道部上水課と改まる。
27. 10. 1	地方公営企業法の施行を機に同法の全面適用を受け、市長部局から分離し、高岡市公営企業水道部として発足、従来の官庁会計から企業会計に切り替えた。
28. 6. 5	地方公営企業法適用当時の部課は、部長（管理者）、次長の下に業務、工務の 2 係制であったが、事業の膨張により既設の業務係を業務係と経理係に分離し、3 係とした。
31. 12.	第 2 期拡張事業計画を策定。（総事業費 4 億円、昭和 32 年度～昭和 34 年度）
31. 12. 24	第 2 期拡張事業認可。 （計画給水人口 150,000 人、1 人 1 日最大給水量 320L、1 日最大給水量 48,000 m ³ ）
32. 1. 15	市役所全体の機構改革に伴い、従前の公営企業水道部を水道局と改め、局に局長、次長を置くほか、4 課 3 業務所を設置し、業務課に庶務と業務の 2 係を、経理課に経理係を、工務課に計画と工事の 2 係を新設。
33. 5. 2	二塚、西広上簡易水道事業認可。（総工事費 500 万円、給水人口 1,050 人）
34. 3. 18	第 2 期拡張事業を変更。（昭和 35 年度までの継続事業、総事業費 4 億 3,600 万円に変更、起債 4 億 1,600 万円、自己資金 2,000 万円）
34. 4. 1	高岡市下水道条例施行規則の改正により、市長から下水道使用料認定徴収事務が委任されて下水道使用料徴収を開始。
35. 3. 15	第 2 期拡張事業を変更。（昭和 36 年度までの継続事業に変更）
35. 4. 1	集金委託実施。
35. 9. 30	大門町への上水道供給契約を締結。
35. 12.	変更認可。（計画給水人口 154,000 人、1 日最大給水量 49,280 m ³ ）
36. 3. 15	第 2 期拡張事業を変更。（昭和 38 年度まで 2 か年延長、総事業費 5 億 6,000 万円に変更）
36. 11. 13	通水 30 周年記念式典。
37. 3. 14	第 2 期拡張事業を変更。（総事業費 6 億 1,000 万円に変更）

年 月 日	事 項
昭和	
37. 7. 20	石堤地区簡易水道事業認可。(総工費 666 万円、給水人口 1,030 人)
39. 3. 26	第 2 期拡張事業を変更。(竣工期日の延長及び総事業費 6 億 2,200 万円に変更、起債 5 億 8,900 万円、自己資金 3,300 万円)
39.10. 1	拡張事業に伴い建設課を新設。
40. 4. 1	料金改定(平均 39.1%値上げ)を実施。 水道料金の口座振替実施。
41. 1.	第 3 期拡張事業計画を策定。(総事業費 7 億 5,000 万円、昭和 41 年度～昭和 45 年度)
41. 2. 24	第 3 期拡張事業認可。 (計画給水人口 156,874 人、1 人 1 日最大給水量 463L、1 日最大給水量 72,600 m ³)
41. 3. 31	富山県営水道用水供給事業と受水協定を締結。
42. 4. 1	電子計算機導入。
42. 5. 30	中田下山田地区の組合営簡易水道に砺波市から受水。
43. 4. 30	庄川水管橋(延長 515m)及び庄川幹線配水管布設工事(口径 600 mm ～ 900 mm、延長 12,719m)の完成。
43. 6. 15	庄川幹線竣工通水式。
43. 7. 1	富山県と高岡市が水道用水受給契約を締結し、富山県営水道(和田川水系)から浄水を受水。
44. 3. 19	料金改定(平均 36%値上げ)議決、昭和 44 年 4 月 1 日から施行。
44. 5. 1	第 3 期拡張事業を変更。(昭和 47 年度まで 2 か年延長、総事業費 11 億 8,300 万円に変更)
44. 6. 20	中田配水場管理室(鉄筋コンクリート平屋建 133.9 m ²) 1 棟完成。
44. 7. 15	中田配水池(容量 6,500 m ³) 1 池完成。
45.11. 5	能町業務所・ポンプ室(鉄筋コンクリート平屋建 2 棟)完成。
46. 8. 23	高岡市水道庁舎起債が認可された。
47. 2. 14	第 3 期拡張事業を変更。(昭和 48 年度まで延長、総事業費 16 億 3,800 万円に変更)
47. 7. 30	中田配水池(容量 6,500 m ³) 1 池完成。(工事費 4,175 万円)
48. 3. 29	料金改定(平均 41.9%値上げ)議決、昭和 48 年 4 月 1 日から施行。
48. 4. 1	水道事業の維持管理に万全を期すため、従来の維持管理係を維持係と管理係に分離。
49. 2.	第 4 期拡張事業計画を策定。(総事業費 20 億円、昭和 49 年度～昭和 54 年度)
49. 3. 30	第 4 期拡張事業認可。 (計画給水人口 161,826 人、1 人 1 日最大給水量 622L、1 日最大給水量 100,700 m ³) 清水町水道公園築造工事。(昭和 49 年 6 月 30 日完成)
49. 3. 31	二塚、石堤地区簡易水道を廃止。
49. 4. 1	中田下山田簡易水道を廃止。
51. 2. 12	伏木庁舎新築工事。(総事業費 1,220 万円、昭和 51 年 5 月 31 日完成)
51. 3.	氷見市との災害対策連絡管を布設。(高岡市太田地内)
51. 3. 31	清水町(一部)、伏木業務所(赤坂地区)を売却。
51. 4. 1	第 4 期拡張事業を変更。(総事業費 36 億円に変更)
51. 5. 10	上関庁舎新築工事。(総工事費 1 億 8,200 万円、昭和 51 年 11 月 13 日完成)
51. 9. 24	料金改定(平均 43.1%値上げ)議決、昭和 51 年 10 月 1 日から施行。 加入金制度の新設議決、昭和 51 年 10 月 1 日から施行。
51.10. 1	機構改革の実施、4 課 3 業務所 1 管理所から 7 課 2 業務所に変更した。

年 月 日	事 項
昭和	
52. 4. 1	第1次計画漏水調査の実施。(昭和52年度～昭和56年度)
52. 8. 1	集中監視制御システム設備の一部稼働。
52.10. 1	能町業務所の廃止。
	隔月検針の実施。(官公署、大口契約者を除く)
52.12.15	上関庁舎量水器修理場の完成。(鉄筋平屋建 146.30 m ² 、工事費 1,215 万円)
53. 3.24	料金改定 (平均 19.6%値上げ) 議決、昭和53年4月1日から施行。
	第4期拡張事業を変更。(総事業費 38 億円に変更)
53. 3.31	小矢部川水管橋工事完成。(口径 900 mm、延長 261.5m、工事費 2 億 2,000 万円)
53. 5.	高岡西部無水源地域簡易水道建設事業計画の策定。(総事業費 1 億 1,642 万円、昭和53年度～昭和54年度)
54. 3.31	集中監視制御システム導入。(工事費 1 億 8,700 万円)
54. 4. 1	富山県西部水道用水供給事業子撫川水源より浄水の受水を開始。 集金制度を廃止、納付制を採用。
54. 5.26	水道50周年記念式典及び国吉配水池、水道つつじ公園、西部簡易水道の完工式。
54. 7.	高岡市頭川無水源地域簡易水道建設事業計画の策定。(総事業費 4,977 万円)
54. 7.25	氷見市細越地区への上水道供給開始。分水契約を締結。
54.10. 1	機構改革の実施、量水器センターを設ける。
55. 4. 1	給水工事の材料を公認業者持ちとする。
55. 4.13	水道局新庁舎竣工式。(地上3階延面積 1,343 m ² 、工事費 2 億 3,299 万円)
55. 4.	高岡南部無水源地域簡易水道建設事業計画の策定。(総事業費 1 億 8,391 万円、昭和55年度～昭和56年度)
55. 9.30	伏木配水池及び集中監視制御設備の完成。(工事費 1 億 5,742 万円、6,330 万円)
56. 2.	第1次配水施設整備事業計画を策定。 (総事業費 20 億円、昭和56年度～昭和60年度) 料金改定 (平均 26.6%値上げ) 議決、昭和56年4月1日から施行。
56. 4. 1	第2次計画漏水調査の実施。(昭和57年度～昭和59年度)
57. 3.	射水上水道企業団との災害対策連絡管を布設。(新湊市川口地内)
57. 6.30	配水制御設備工事完成。(工事費 3 億 2,262 万円)
58. 3.	配水管更生事業計画を策定。
58. 9.21	料金改定 (平均 27.9%値上げ) 議決、昭和58年10月1日から施行。
59.12. 1	射水上水道企業団と災害などの相互応援給水に関する覚書を締結。
60. 4. 1	第3次計画漏水調査の実施。(昭和60年度～昭和64年度)
60. 4.24	厚生省企画「おいしい水研究会」による水道水のおいしい都市に選定される。
60. 5.27	水道公園清水町配水塔が厚生省企画の「近代水道百選」に選定される。
61. 3.	第2次配水施設整備事業計画を策定。 (総事業費 16 億円、昭和61年度～昭和65年度) 配水管更生事業計画を策定。(総事業費 4 億円、昭和61年度～昭和65年度)
61. 3.28	第4期拡張事業変更認可。(計画給水人口 176,900 人)
62. 4. 1	機構改革の実施により量水器センターを廃止する。
平成	
元. 3.27	消費税導入に伴う、料金改定議決、平成元年4月1日から施行。
元. 5.26	土曜閉庁実施に伴う、修繕工事委託契約を締結。
元. 7. 6	第67回 日本水道協会中部地方支部総会を開催。

年 月 日	事 項
平成	
2. 2. 9	ステンレス給水管を採用。(平成2年度から使用)
2. 4. 1	第4次計画漏水調査の実施。(平成2年度～平成6年度) 配水管工事の資材を請負業者持ちに移行。
3. 3.	第3次配水施設整備事業計画を策定。 (総事業費 61 億 5,000 万円、平成3年度～平成7年度)
3. 3. 20	伏木配水池(低区)に緊急遮断弁設置。(工事費 5,253 万円)
3. 4. 1	検針業務一部委託。(伏木地区)
3. 6. 1	通水 60 周年記念式典を開催。
3. 9. 24	料金改定(平均 21.5%値上げ) 議決、平成3年12月1日から施行。 加入金改定議決、平成4年4月1日から施行。(資本的収入→収益的収入) (金額改定と資本的収入から収益的収入に変更)
4. 4. 1	検針業務一部委託。(野村地区など) 検針ハンディーターミナルの導入。 給水設計業務を水道工事指定店に移行。
4. 6. 26	水道モニター制度を採用。
4. 7. 1	水道広報紙「うるおい」を発刊。
4. 12. 21	厚生省水質基準に関する省令の改正、平成5年12月1日から施行。 (水質基準項目 26 項目から 46 項目)
5. 4. 1	検針業務全面委託。
5. 6. 1	清水町配水塔資料館開館。
5. 8. 1	財務会計システム本稼働。
6. 4. 1	機構改革の実施により伏木業務所を統合。 3階建て建物への直結給水を開始。
7. 1. 20	阪神・淡路大震災の被災地(西宮市)への応急給水及び応急復旧活動に職員を派遣。 (期間 1月20日～2月28日、水道局職員 42 名、給水工事指定店職員 22 名)
7. 3. 27	財高岡市水道サービス公社設立。(平成7年4月1日から業務開始)
7. 4. 1	第5次計画漏水調査の実施。(平成7年度～平成12年度)
7. 12.	自動作図(CAD)設計積算システムを導入。
8. 3.	第4次配水施設整備事業計画を策定。 (総事業費 85 億 5,000 万円、平成8年度～平成12年度)
8. 3. 20	新集中監視制御システム設備の完成。(工事費 3 億 4,093 万円)
8. 5.	水の缶詰(高岡銘水物語～おいしい万葉の水)を製作。
8. 11. 15	清水町配水塔資料館が「登録有形文化財」に選定される。(平成8年12月20日登録)
8. 12.	上水道震災対策計画を策定。
9. 2. 21	清水町配水塔資料館旧第3源井上屋、水源地水槽が「登録有形文化財」に選定される。 (平成9年5月7日登録)
9. 3. 26	消費税率改定に伴い料金改定議決、平成9年4月1日から施行。
9. 4. 1	中高層建築物への直結加圧給水を開始。
9. 10. 2	水道つつじ公園が「とやま花の名所」に選定される。
10. 2. 13	中田配水池に緊急遮断弁設置。(工事費 1 億 1,515 万円)

年 月 日	事 項
平成	
10. 3.	高岡市水道施設整備コスト縮減行動計画の策定。
10. 4. 1	水道法の一部改正に伴い、指定給水装置工事事業者制度の施行。 給水設計業務の指定工事事業者への全面移行。 県企業局に水質検査業務の一部を委託。
10. 6.	高岡市給水装置設計施工基準の作成。
10. 9. 1	災害時等による応急活動の協力に関する協定締結。（高岡市管工事業協同組合・市内資材業者 4 社）
11. 2.	宝来町無水源地域簡易水道建設事業計画の実施。（総事業費 3,397 万円、平成 10 年度～平成 11 年度）
11. 4. 1	組織の見直しにより全課に担当制を導入。（5 課 16 係 2 担当制から 4 課 15 担当制）
11. 4.	2000 年とやま国体にあわせ水の缶詰（高岡の水）をデザイン変更。
11. 7.	J R 高岡駅前に、P R 用水飲み場を設置。
11. 9. 29	料金改定（平均 18.3%値上げ）議決、平成 11 年 12 月 1 日から施行。
11. 10. 12	中田配水場 2 号配水池補修工事完成。（2 か年継続事業費 7,140 万円）
11. 11. 10	水道局庁舎玄関のバリアフリー化工事完成。（工事費 155 万円）
12. 1. 20	能町ポンプ場受変電設備更新工事完成。（工事費 3,150 万円）
12. 4. 1	地方分権一括法による水道法の改正に伴い、高岡市水道局簡易専用水道の適正な維持管理に関する規程の施行。
12. 11.	砺波市との災害対策連絡管を布設。（高岡市戸出行兼地内）
12. 12. 26	氷見市・砺波市と災害などの相互応援給水に関する覚書を締結。
13. 3.	第 5 次配水施設整備事業計画を策定。 （総事業費 50 億 7,380 万円、平成 13 年度～平成 17 年度）
13. 4. 1	第 6 次計画漏水調査の実施。（平成 13 年度～平成 17 年度）
13. 4. 25	国吉配水池外装補修工事完成。（2 か年継続事業費 6,357 万円）
13. 4.	通水 70 周年記念としてペットボトル「高岡の水」（500mL）の製造及び記念誌「高岡水道物語」を発刊。
13. 5. 12	水道つつじ公園内に「うるおい水車」の設置除幕式。
13. 6. 1	水道料金システムの更新。
13. 10. 31	上関・国吉配水場塩素注入設備更新工事完成。（工事費 2,888 万円）
13. 11. 15	第 26 回 日本水道協会中部支部研究発表会を開催。
13. 12. 26	「高岡市水道局ホームページ」の開設。
15. 5. 30	厚生労働省水質基準に関する省令の改正、平成 16 年 4 月 1 日から施行。 （水質基準項目 46 項目から 50 項目）
15. 9. 16	高岡市庁内 LAN 接続に伴う情報ネットワーク基盤整備事業。（平成 15 年度～平成 17 年度）
15. 11.	水道つつじ公園が「富山さくらの名所」に選定される。
16. 3. 15	能町ポンプ場低圧盤及びポンプ盤更新工事完成。（工事費 3,171 万円）
16. 3. 31	財務会計システムの更新事業。
16. 4. 1	自動作図（CAD）設計積算システムの更新。
16. 4. 30	国吉配水池（PC 鋼棒定着柱）補修工事完成。（工事費 2,173 万円）
16. 8. 25	水道料金コンビニ収納サービス開始。
16. 9. 16	検針用ハンディーターミナルの更新。（平成 17 年 4 月 1 日稼働）

年 月 日	事 項
平成	
16. 10. 24	新潟県中越地震の被災地（長岡市）へ応急給水及び漏水調査活動に職員を派遣。 （期間 10 月 24 日～11 月 2 日、職員 20 名）
16. 12. 14	清水町配水塔資料館外壁補修工事完成。（工事費 1,417 万円）
16. 12. 17	庄川水管橋塗装塗替工事完成。（工事費 3,402 万円） 伏木 3 号配水池外面防水塗装塗替工事完成。（工事費 1,207 万円）
17. 4. 1	新潟県中越地震の被災地（長岡市）へ災害復旧対策等のため職員を派遣。 （期間 平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日、職員 2 名）
17. 9. 27	「水道ガイドライン」業務指標の算定・公表。
17. 11. 1	高岡市と福岡町が合併し、新「高岡市」誕生。 （水道事業・工業用水道事業・簡易水道事業を設置）
18. 2. 24	能町ポンプ場ポンプ室天井部石綿除去工事完成。（工事費 441 万円）
18. 3. 15	上関配水場整備工事完成。（工事費 1,097 万円）
18. 4. 1	庁内清掃・警備業務の長期契約を締結。
18. 4.	住民アンケート調査の実施。（一般用 2,000 世帯対象・結果 7 月）
18. 5. 18	高岡市水道事業経営委員会を設置。（要綱 18. 3. 1 施行）
19. 1. 15	伏木配水場 3 号配水地（P C タンク内槽）補修工事完成。（工事費 1,130 万円）
19. 3. 15	上関庁舎耐震補強工事完成。（工事費 1,779 万円）
19. 3. 16	高新大橋 φ300mm 鋼管塗装塗替・補修工事完成。（工事費 1,353 万円）
19. 3. 31	高岡市水道ビジョンの策定・公表。
19. 3. 22	料金改定（平均 2.47%値下げ）議決、平成 19 年 4 月 1 日から施行。
19. 3. 25	能登半島地震の被災地（輪島市）へ応急給水活動に職員を派遣。 （期間 3 月 25 日～4 月 6 日、職員 25 名）
19. 7. 10	厚生労働省立入検査。
19. 7. 16	新潟県中越沖地震の被災地（上越市・柏崎市）へ応急給水及び漏水調査活動に職員を派遣。 （期間 7 月 16 日～27 日、職員 13 名）
19. 9. 14	事務事業改善委員会を設置。（要綱 19. 9. 1 施行）
19. 10. 31	本庁舎耐震診断業務委託。（141 万円）
19. 12. 14	中田配水場 1 号配水池外面改修工事完成。（工事費 1,446 万円）
19. 12. 14	千保川水管橋塗装塗替・鋼管補修工事完成。（工事費 943 万円）
20. 3. 25	料金改定（平均 1.07%値下げ）議決、平成 20 年 4 月 1 日から施行。
20. 4. 1	民間宅地開発に係わる水道管整備の設計積算業務の民間移行。
20. 7. 1	高岡開町 400 年記念版ペットボトル「高岡の水」を製造。
20. 7. 31	第 86 回 日本水道協会中部地方支部総会を開催。
20. 12. 19	中田配水場配水池（P C タンク）補修工事完成。（工事費 2,365 万円）
21. 1. 15	検針業務委託契約を締結、平成 21 年 4 月 1 日から施行。
21. 2. 26	高岡市管工事業協同組合と公道漏水修理工事委託契約を締結、平成 21 年 4 月 1 日から施行。
21. 3. 31	上関配水場 2 号配水池耐震補強計画業務委託。（788 万円） 高岡市水道事業変更認可〔第 4 期拡張事業（第 2 回変更）〕 （給水人口 176,900 人 → 154,500 人、1 日最大給水量 89,200 m ³ → 65,300 m ³ ）
21. 9. 12	高岡開町 400 年記念式典。（高岡市民会館）

年 月 日	事 項
平成	
21. 10. 13	水道料金システム端末パソコン及び検針用ハンディーターミナルの更新。 (平成 22 年 4 月 1 日稼働)
21. 12. 15	伏木高区配水池築造工事完成。(工事費 9,261 万円)
22. 3. 15	伏木配水場電気設備更新工事完成。(工事費 1 億 2,170 万円)
22. 3. 19	基幹施設耐震診断等業務委託。(中田配水池・国吉配水池・伏木 3 号配水池)(1,512 万円)
23. 1. 14	検針業務等委託契約を締結、平成 23 年 4 月 1 日から施行。(検針・開閉栓業務)
23. 3. 12	東日本大震災の被災地(茨城県龍ヶ崎市)へ応急給水活動に職員を派遣。 (期間 3 月 12 日～15 日、職員 4 名)
23. 3. 15	佐野水源紫外線処理施設整備事業の完工。(2 か年継続事業 総事業費 2 億 4,475 万円)
23. 3. 25	東日本大震災の被災地(宮城県石巻市)へ漏水調査及び応急給水活動に職員を派遣。 (期間 3 月 25 日～4 月 21 日、職員 18 名)
23. 3. 31	高岡市管工事業協同組合と水道施設等の協同保守に関する協定を締結、平成 23 年 4 月 1 日から施行。
23. 7. 30	新潟・福島豪雨の被災地(新潟県三条市)へ応急給水活動に職員を派遣。 (期間 7 月 30 日～8 月 2 日、職員 2 名)
23. 10.	通水 80 周年を記念して、パンフレット「高岡の水道施設」を作成。(2,000 部)
24. 1. 1	財高岡市水道サービス公社の解散。
24. 1. 19	高岡市水道料金等徴収業務委託契約を締結、平成 24 年 4 月 1 日から施行。
24. 3. 15	庄川水管橋耐震補強工事完成。(平成 22 年度～23 年度 総工事費 1 億 7,532 万円)
24. 8.	高岡市水道ビジョンの見直し。
24. 10. 10	日本水道協会中部地方支部合同防災訓練の開催。(上関配水場 10 月 10 日～11 日)
24. 11. 5	水道局上関庁舎外壁改修工事完成。(工事費 1,061 万円)
25. 3. 21	上関配水場電気設備更新工事完成。(平成 23 年度～24 年度 総工事費 2 億 2,800 万円)
25. 4. 1	警備業務委託の拡大に伴い職員の休日当番制の廃止。
25. 11. 15	中田配水場 1 号、2 号配水池耐震補強工事完成。(工事費 1,554 万円)
26. 3. 14	公営企業会計システムの更新。
26. 3. 20	料金改定(平均 1.17%値下げ及び消費税率改定)議決、平成 26 年 4 月 1 日から施行。 料金計算の端数処理を 10 円未満切捨てから 1 円未満切捨てに変更。
26. 4. 1	高岡市上下水道事業の組織統合により、『高岡市上下水道局』が発足。
26. 8.	ペットボトル「高岡の水」のラベルデザインを 3 種類に変更。
26. 11. 25	長野県神城断層地震の被災地(白馬村)へ応急給水及び応急復旧活動に職員を派遣。 (期間 11 月 25 日～28 日、職員 4 名)
27. 1. 28	高岡市水道料金等徴収業務委託契約を締結、平成 27 年 4 月 1 日から施行。
27. 1. 30	佐野取水場 取水井・調圧槽補修及び耐震補強工事完成。(工事費 2,950 万円)
27. 3. 16	能町ポンプ場流量調整弁盤更新工事完成。(工事費 7,160 万円)
27. 5. 1	㈱ジェネッツと災害等における応援業務に関する協定を締結、平成 27 年 5 月 1 日から施行。
27. 6. 1	ペットボトル「高岡の水」が 2015 モンドセレクション金賞受賞。
27. 6. 30	上下水道局本庁舎外壁改修工事完成。(工事費 3,414 万円)
28. 3. 15	小矢部川水管橋耐震補強工事完成。(工事費 8,681 万円)
29. 2. 28	国吉配水池に緊急遮断弁設置。(工事費 1 億 2,307 万円)
29. 3. 15	上関配水場集中監視設備更新及び水質自動測定装置 5 箇所設置。(工事費 4 億 3,847 万円) 高岡市水道事業譲受届出。(簡易水道事業との統合手続)

年 月 日	事 項
平成	
29. 3. 31	高岡市上下水道ビジョン（計画期間：平成 29 年度～平成 38 年度）の策定・公表。
29. 4. 1	水道事業に簡易水道事業を経営統合。
29. 9. 28	厚生労働省立入検査。
29. 11. 30	中田・上関配水区と福岡南部配水区との緊急時用連絡管を布設。（醍醐須田地内）
30. 1. 10	国吉配水池耐震補強工事完成。（工事費 1 億 9,422 万円）
30. 1. 23	高岡市水道料金等徴収業務委託契約を締結、平成 30 年 4 月 1 日から施行。
30. 1. 30	北陸地方凍結災害の被災地（石川県穴水町）へ応急給水活動に職員を派遣。 （期間 1 月 30 日～2 月 3 日、職員 4 名）
30. 3. 30	水道料金システムの更新。（平成 30 年 4 月 1 日稼働）
31. 1. 15	伏木配水場 3 号配水池改修工事完成。（工事費 4,997 万円）
31. 3. 26	消費税率改定に伴う料金改定が議決、令和元年 10 月 1 日施行。
令和	
元. 7. 8	ペットボトル「高岡の水」のラベルデザインを変更。
元. 10. 1	水道法改正により、指定給水装置工事事業者制度に更新制施行。
元. 10. 31	国吉配水池内槽改修工事完成。（工事費 6,780 万円）
元. 11. 22	上下水道局本庁舎及び上関庁舎照明器具取替工事完成（LED 化）。（工事費 1,698 万円）
元. 12. 23	自動作図（CAD）設計積算システムの更新。
2. 3. 16	中田配水場 1 号配水池外部改修工事完成。（工事費 1,869 万円）

(2) 旧簡易水道事業(福岡町地区)のあゆみ

年 月 日	事 項
昭和	
36. 1. 7	三日市団地簡易水道事業の創設。(計画給水人口 200 人、1 日最大給水量 30 m ³)
40. 11. 5	西干場住宅簡易水道事業の創設。 (計画給水人口 800 人、1 人 1 日最大給水量 150L、1 日最大給水量 120 m ³) 土屋簡易水道事業の変更。(昭和 28 年 3 月 21 日西五位村にて創設) (計画給水人口 150 人、1 人 1 日最大給水量 333L、1 日最大給水量 50 m ³)
47. 3. 30	大滝団地簡易水道事業の創設。(計画給水人口 300 人、1 日最大給水量 45 m ³)
50. 4. 1	各簡易水道事業の水道料金を統合。
50. 5. 16	西干場住宅簡易水道事業から、福岡地区簡易水道事業へ名称変更。 (計画給水人口 4,890 人、1 人 1 日最大給水量 266L、1 日最大給水量 1,302 m ³)
50. 8. 1	土屋簡易水道事業から、西部地区簡易水道事業へ名称変更。 (計画給水人口 3,700 人、1 人 1 日最大給水量 158L、1 日最大給水量 583 m ³)
51. 3.	福岡浄水場の完成。
52. 4. 1	西部地区簡易水道から給水開始のため、三日市団地簡易水道事業の廃止。 福岡地区簡易水道から給水開始のため、西干場住宅簡易水道事業の廃止。 西部地区簡易水道から給水開始のため、土屋簡易水道事業の廃止。
54. 3.	上向田配水池の完成。
54. 4. 1	富山県西部水道用水供給事業子撫川水源より浄水の受水を開始。(日量 500 m³) 福岡地区簡易水道から給水開始のため、大滝団地簡易水道事業の廃止。
55. 1. 11	北部地区簡易水道事業の創設。 (計画給水人口 700 人、1 人 1 日最大給水量 300L、1 日最大給水量 210 m ³)
55. 4. 1	水道料金の改定。
55. 4. 25	五位浄水場の完成。
56. 6. 15	沢川地区簡易水道事業の創設。 (計画給水人口 160 人、1 人 1 日最大給水量 200L、1 日最大給水量 32 m ³)
57. 4. 1	水道料金の改定。
57. 11.	沢川浄水場の完成。
59. 2. 24	木舟団地簡易水道事業の創設。 (計画給水人口 208 人、1 人 1 日最大給水量 200L、1 日最大給水量 41.6 m ³)
59. 3.	木舟浄水場の完成。
59. 4. 1	水道料金の改定。
62. 4. 1	水道料金の改定。
平成	
元. 4. 1	消費税導入に伴う、水道料金の改定。
2. 10. 23	上蓑団地簡易水道事業の創設。 (計画給水人口 315 人、1 人 1 日最大給水量 300L、1 日最大給水量 94.5 m ³)
3. 5. 1	上蓑浄水場の譲渡契約。
7. 10.	一步二歩浄水場の完成。
8. 4. 1	一步二歩団地簡易水道事業の創設。 (計画給水人口 240 人、1 人 1 日最大給水量 250L、1 日最大給水量 60 m ³)
9. 4. 1	消費税率改定等に伴う、水道料金の改定。

年 月 日	事 項
平成	
10. 3. 31	福岡地区簡易水道事業の変更。 (計画給水人口 4,080 人、1 人 1 日最大給水量 353L、1 日最大給水量 1,440 m ³)
12. 11. 21	西部地区簡易水道事業の変更。 (計画給水人口 3,900 人、1 人 1 日最大給水量 315L、1 日最大給水量 1,230 m ³ ・子撫川受水量：日量 850 m ³)
13. 3. 29	上蓑団地簡易水道事業から上蓑地区簡易水道事業に変更。 (計画給水人口 1,000 人、1 人 1 日最大給水量 315L、1 日最大給水量 315 m ³)
14. 3.	上向田配水池（新配水池）の完成。
16. 11. 1	南部地区簡易水道事業の創設。(平成 17 年度～平成 25 年度、総事業費 1,938,000 千円) (計画給水人口 4,450 人、1 人 1 日最大給水量 391L、1 日最大給水量 1,740 m ³)
17. 11. 1	高岡市と福岡町が合併し、新「高岡市」が誕生。 合併を機に地方公営企業法を適用し、企業会計とする。
18. 3.	西部地区・沢川地区簡易水道に水質自動測定装置を設置。(設備費 16,275 千円)
19. 3. 15	北部地区簡易水道に水質自動測定装置を設置。(設備費 7,403 千円)
19. 3. 22	料金改定（平均 2.47%値下げ）議決、平成 19 年 4 月 1 日から施行。
19. 10. 4	沢川地区簡易水道の原水から病原性原虫ジアルジアを検出。
20. 1. 16	沢川地区簡易水道事業変更届け出提出。(浄水処理方法の変更)
20. 3. 25	料金改定（平均 1.07%値下げ）議決、平成 20 年 4 月 1 日から施行。
20. 3. 27	沢川浄水場に T O 式上向性ろ過装置を設置。(設備費 11,214 千円)
20. 12. 22	南部地区簡易水道事業の給水開始式を開催。 平成 20 年 12 月 24 日から併用開始のため、木舟団地簡易水道事業の廃止。
24. 3. 25	南部地区簡易水道から給水開始のため、一步二歩団地簡易水道事業の廃止。
26. 3. 20	料金改定（平均 1.17%値下げ及び消費税率改定）議決、平成 26 年 4 月 1 日から施行。 料金計算の端数処理を 10 円未満切捨てから 1 円未満切捨てに変更。
26. 4. 1	高岡市上下水道事業の組織統合により、『高岡市上下水道局』が発足。
26. 12. 10	南部地区簡易水道と上蓑地区簡易水道間に災害対策連絡管を布設。(工事費 12,614 千円)
29. 3. 31	高岡市簡易水道事業の廃止。(平成 29 年 4 月 1 日から水道事業に経営統合)

2. 水道事業の概要と認可

(1) 水道事業の概要と認可

事業名	主なる工事内容
創設	取水井（φ300mm）3井・導水管（φ250mm～φ300mm）1,782m 急速ろ過槽（キャンデー一式） 配水塔 29.4m（鉄筋コンクリート造・容量 360 m ³ ） 配水池 2 池・ベンチュリーメーター（φ50mm）1 基 配水ポンプ 6 台・ディーゼル発電機 2 基 配水管（φ100mm～φ500mm）40,995m 取・配水ポンプ室・機関室・ろ過室・公舎一式・電気設備一式
伏木地区 拡張事業	取水井（φ300mm）3 井・導水管（φ250mm～φ400mm）1,695m 送水ポンプ（45 馬力）2 台 送水管（φ450mm）4,577m・吸水槽 1 基 加圧ポンプ（75 馬力）2 台・伏木低区配水池（容量 1,500 m ³ ）1 池 伏木高区配水池 1 池・配水管（φ75mm～φ450mm）16,608m
第 2 期 拡張事業	取水井（内径 3～5m）4 井・調圧槽 1 基 水中モーターポンプ（40 馬力）6 台・導水管（φ700mm）4,060m 上関配水池（容量 4,500 m ³ ）2 池・吸水井 1 井 配水ポンプ（75 馬力）4 台・伏木低区配水池（容量 1,500 m ³ ）1 池 送水管（φ400mm）4,300m・配水管（φ100mm～φ700mm）71,490m ディーゼル発電機（上関 500KVA・佐野 100KVA）2 基 上関配水場及び佐野取水場建築一式・電気設備一式
第 3 期 拡張事業	庄川水管橋 515m・中田配水池（容量 6,500 m ³ ）2 池 塩素滅菌機一式・配水管（φ100mm～φ900mm）177,574m 送水管（φ600mm）1,000m・計装設備一式 管理室建築 108.54 m ² ・配水場用地 20,600 m ²
第 4 期 拡張事業	小矢部川水管橋 261.5m・国吉配水池（容量 6,000 m ³ ）2 槽 伏木低区配水池（容量 1,500 m ³ ）1 池 配水管（φ75mm～φ900mm）90,690m 集中監視制御システム設備一式・管理室 1 棟・配水場等用地 42,252 m ²
第 1 次配水施設 整備事業	配水管整備（φ50mm～φ400mm）72,275m 配水制御設備一式
第 2 次配水施設 整備事業	配水管整備（φ50mm～φ450mm）58,297m 佐野水源地・中田配水池・伏木配水池・能町ポンプ場等の設備改良 伏木配水池緊急遮断弁設置
第 3 次配水施設 整備事業	配水管整備（φ40mm～φ700mm）213,892m 集中監視制御設備の更新
第 4 次配水施設 整備事業	配水管整備（φ40mm～φ700mm）131,267m 地震災害対策〈上水道震災対策計画の策定、中田配水池緊急遮断弁設置、基幹施設の耐震診断〉 給水管のステンレス化 5,424 件
第 5 次配水施設 整備事業	配水管整備（φ40mm～φ700mm）89,471m 基幹施設の整備〈場内連絡管布設替〉 給水管のステンレス化 4,916 件

事業費	着手年月	完工年月	認可事項			
			認可年月日	計画給水人口	一人一日最大給水量	一日最大給水量
(円) 計画 1,350,000 変更 1,148,732	昭和 3. 12	昭和 6. 6	昭和 3. 11. 6	(人) 80,000	(L) 111	(m³) 8,880
計画 850,000 変更 221,675,000	19. 4	31. 11	変更 19. 2. 2	110,000	200	22,000
計画 400,000,000 変更 436,000,000 変更 変更 560,000,000 変更 610,000,000 変更 622,000,000	32. 4	35. 3 36. 3 37. 3 39. 3 39. 10	変更 31. 12. 24 変更 35. 12. 27	150,000 154,000	320	48,000 49,280
計画 750,000,000 変更 1,183,000,000 変更 1,638,000,000	41. 4	46. 3 48. 3 49. 3	変更 41. 2. 24	156,874	463	72,600
計画 2,000,000,000 変更 3,600,000,000 変更 3,800,000,000	49. 4	55. 3 56. 3	変更 49. 3. 30	161,826	622	100,700
計画 2,000,000,000	56. 4	61. 3				
計画 1,600,000,000	61. 4	平成 3. 3	変更 61. 3. 28	176,900	504	89,200
計画 6,150,000,000 実績 9,030,442,893	平成3. 4	8. 3				
計画 8,550,000,000 (H9. 10事業費の見直し 8,043,000,000) 実績 6,955,624,000	8. 4	13. 3				
計画 5,073,800,000 実績 5,549,876,000	13. 4	18. 3				

事業名	主 なる 工 事 内 容	
配水施設 整備事業	老朽管整備	3,336m
	給水管のステンレス化	878件
	管路整備	7,634m
	基幹施設の整備	〈配水池補修、上関庁舎耐震補強等〉
	消火栓整備	29件
	未普及地域整備	1,438m
第1次水道施設 整備事業	老朽管の整備	15,348m
	管路の整備	27,116m
	未普及地域の整備	1,435m
	基幹施設の整備	〈配水池補修、耐震強化、耐震診断等〉
	給水管のステンレス化	4,197件
	消火栓の整備	
	佐野水源紫外線処理 施設整備	21,000m ³ /日
第2次水道施設 整備事業	老朽管の整備	24,939m
	管路の整備	30,915m
	未普及地域の整備	2,000m
	基幹施設の整備	〈配水池補修、耐震強化、耐震診断等〉
	給水管のステンレス化	4,897件
	消火栓の整備	
第3次水道施設 整備事業	老朽管の整備	14,220m
	基幹管路の整備	5,300m
	管路の整備	27,285m
	未普及地域の整備	4,650m
	基幹施設の整備	〈耐震補強、耐震診断等〉
	給水管のステンレス化	4,060件
	消火栓の整備	

事業費	着手年月	完工年月	認可事項			
			認可年月日	計画給水人口	一人一日最大給水量	一日最大給水量
(円) 計画 958,268,000 実績 860,667,000	平成 18. 4	平成 19. 3				
計画 3,460,000,000 実績 3,959,694,000	19. 4	24. 3	変更 21. 3. 31	154,500	423	65,300
計画 6,431,952,000 実績 6,249,953,000	24. 4	29. 3	変更 29. 3. 15	155,400	354	55,050
計画 6,171,766,000	29. 4	令和 3. 3				

(2) 旧簡易水道事業(福岡町地区)の概要と認可

事業名	主なる工事内容
西干場住宅簡易水道事業（創設） （福岡地区簡易水道事業に事業変更）	新設（深井戸 φ 100mm×63m）福岡1545番地
大滝団地簡易水道事業（創設） （福岡地区簡易水道事業に統合）	新設（深井戸 φ 250mm×50m）大滝288番地
福岡地区簡易水道事業 （変更・西干場住宅簡易水道事業から名称変更） 厚生省国庫補助事業	区域拡張（深井戸 φ 300mm×80m）荒屋敷303番地 （水源施設） 水源さく井 φ 300mm×80m 水源ピット 1式 取水ポンプ 1台 滅菌機 2台 滅菌室 1棟 加圧ポンプ 4台 圧力タンク 1基 流量計 1基 流量計ピット 一式 自家発電装置 ディーゼルエンジン 1台 自家発電室 1棟 計装機器 主幹盤、取水ポンプ盤、加圧ポンプ盤、 補機盤、計器盤 一式 （配水管） φ 50mm～φ 200mm 16,188m （給水施設） φ 13mm～φ 40mm 780箇所 （消火栓） φ 65mm 単口地下式 66基
福岡地区簡易水道事業（変更） 厚生労働省国庫補助事業	区域拡張 （水源施設） 水源さく井 φ 300mm×149.5m 水源ピット 一式 取水場内配管・整備 門柵 取水ポンプ設備 電気設備・計装設備 導水管 φ 150mm 267m 塩素滅菌設備 浄水場上屋 増設 場内配管・整備 浄水場門扉・門柵 配水ポンプ設備 電気計装設備 中央監視設備 （配水管） φ 50mm～φ 200mm 18,799.5m （消火栓） φ 65mm 単口地下式 44基
（高岡市水道事業に統合）	

事業費	着工年月	完工年月	認 可 事 項			
			認可年月日	計画給水 人 口	一人一日 最大給水量	一 日 最大給水量
(円) 3, 500, 000	昭和40. 1	昭和40. 3	昭和40. 11. 5 (廃止) 昭和52. 4. 1	(人) 800	(L) 150	(m³) 120
3, 200, 000	昭和46. 9	昭和47. 3	昭和47. 3. 30 (廃止) 昭和54. 4. 1	300	150	45
205, 000, 000 281, 368, 000	昭和50. 8	昭和52. 3	昭和50. 5. 16	4, 890	266	1, 302
分担金 国庫支出金 県支出金 町費 うち起債	42, 774, 000 58, 370, 000 22, 373, 000 157, 851, 000 152, 700, 000	昭和50～51				
450, 000, 000 662, 206, 000	平成10. 4	平成18. 3	平成10. 3. 31	4, 080	353	1, 440
国庫支出金 県支出金	161, 824, 000 66, 220, 000	平成10～17				
			(廃止) 平成29. 3. 31			

事業名	主なる工事内容
三日市団地簡易水道事業（創設） （西部地区簡易水道事業に統合）	新設（浅井戸 φ760mm×4.8m）三日市546番地
土屋簡易水道事業（創設）西五位村 土屋簡易水道事業（変更） （西部地区簡易水道事業に統合）	新設（表流水）土屋 水源変更（浅井戸 φ1,500mm×4.86m）土屋18
西部地区簡易水道事業 （変更・土屋簡易水道事業から名称変更） 厚生省国庫補助事業 西部地区簡易水道事業（変更） 厚生労働省国庫補助事業 （高岡市水道事業に経営統合）	区域拡張（浄水受水）上向田283 （水源施設） 滅菌機 2台 滅菌室 1棟 配水池 2連 1池 流量計 1基 道路築造 計装機器 主幹盤、計器盤 一式 流入管 φ200mm（DIP-K） （配水管）φ50mm～φ300mm 31,719.2m （給水施設）φ13mm～φ40mm 712箇所 （消火栓）φ65mm 単口地下式 85基 水量拡張 配水池増設 流入管 φ150mm（DIP-K） 緊急遮断弁設置 門扉・門柵 計装設備 道路改修

事業費	着工年月	完工年月	認 可 事 項			
			認可年月日	計画給水 人 口	一人一日 最大給水量	一 日 最大給水量
(円) 1,465,000	昭和35.10	昭和36.1	昭和36.1.7 (廃止) 昭和52.4.1	(人) 200	(L) 150	(m³) 30
			【西部地区簡易水道事業から給水が開始された日】			
1,845,000	昭和27.7	昭和28.3	昭和28.3.21	150	333	50
	昭和39.12	昭和40.3	昭和40.11.5 (廃止) 昭和52.4.1			
			【西部地区簡易水道事業から給水が開始された日】			
334,010,000 450,866,000	昭和50.9	昭和54.3	昭和50.8.1	3,700	158	583
分担金	54,386,000	昭和50～53				
国庫支出金	121,300,000					
県支出金	35,790,000					
町費	239,390,000					
うち起債	215,400,000					
49,700,000 66,098,000	平成13.1	平成14.3	平成12.11.21	3,900	315 (協定受給水量850)	1,230
国庫支出金	16,100,000	平成12～13				
県支出金	6,440,000					
			(廃止) 平成29.3.31			

事業名	主なる工事内容
北部地区簡易水道事業（創設） 農林水産省国庫補助事業	新設（表流水）五位字堀切214番地・子撫川右岸 （農村総合整備モデル事業・営農飲雑用水供給事業） （水源施設） 取水井 一式 導水管 537m 前処理施設 一式 薬品注入設備 一式 機械設備 一式 自家発電機 ディーゼルエンジン 1台 急速ろ過機 2基 浄水池 1池 浄水場上屋 1棟 配水ポンプ 3台 接合井 1井（栃丘） 配水池 3池（栃丘・花尾・小野） （送配水管）φ50mm～φ150mm 10,314.5m （給水施設）φ13mm～φ40mm 180箇所 （消火栓）φ65mm 単口地下式 30基
北部地区簡易水道事業（基幹改良） 厚生労働省国庫補助事業	（水源施設） 電気設備 1式 薬注設備 1式 機械設備 1式
（高岡市水道事業に経営統合）	
沢川地区簡易水道事業（創設） 厚生省国庫補助事業	新設（伏流水）沢川上山98番地2 （水源施設） 取水井 2井 φ2,000mm×5.5m 取水ポンプ 2台 導水管 209.9m 着水井 1井 急速ろ過機 2基 滅菌機 2台 浄水場上屋 1棟 計装機器 主幹盤 一式 流量計 1基 緊急遮断弁設置 （配水管）φ50mm～φ150mm 2,356.6m （給水施設）φ13mm～φ25mm 47箇所 （消火栓）φ65mm 単口地下式 12基
沢川地区簡易水道事業（変更）	緩速ろ過装置 2台 電気機械設備、場内配管、防護柵、土木工事
（高岡市水道事業に経営統合）	

事業費	着工年月	完工年月	認 可 事 項			
			認可年月日	計画給水 人 口	一人一日 最大給水量	一 日 最大給水量
(円)				(人)	(L)	(m³)
198,000,000 202,400,000	昭和54. 7 (昭和 50. 11)	昭和56. 3	昭和55. 1. 11	700	300	210
国庫支出金 県支出金	94,000,000 37,600,000	昭和54～55				
町費	18,800,000					
分担金	17,100,000					
起債	34,900,000					
46,300,000 62,685,000	平成13. 1	平成14. 3				
国庫支出金 県支出金	12,825,000 7,695,000	平成12～13				
			(廃止) 平成29. 3. 31			
(円)				(人)	(L)	(m³)
72,070,000 69,074,000	昭和56. 10	昭和58. 3	昭和56. 6. 15	160	200	32
国庫支出金 県支出金	22,074,000 13,244,000	昭和56～57				
町費	1,456,000					
起債	32,300,000					
19,991,203	平成19. 12	平成20. 4	(廃止) 平成29. 3. 31			

事業名	主なる工事内容
上叢団地簡易水道事業（創設） （㈱高岡地所寄付採納）	新設 （水源施設） 水源さく井 φ250mm×80m 取水ポンプ 1台 滅菌機 1台 配水ポンプ 2台 浄水場上屋 1棟 圧力タンク 1基 計装機器 主幹盤 一式 流量計 1基 （配水管）φ50mm～φ100mm 1,056.2m （給水施設）φ13mm～φ20mm 67箇所
上叢地区簡易水道事業 （変更・上叢団地簡易水道事業から名称変更） 厚生労働省国庫補助事業	区域拡張 （水源施設） 取水ポンプ設備 塩素滅菌設備 配水池・上屋 増設 場内配管・整備 門扉・門柵 配水ポンプ設備 電気計装設備 中央監視設備 （配水管）φ50mm～φ200mm 6,477.7m （給水施設）φ13mm～φ20mm 79箇所 （消火栓）φ65mm 単口地下式 19基
（高岡市水道事業に経営統合）	

事業費	着工年月	完工年月	認 可 事 項			
			認可年月日	計画給水 人 口	一人一日 最大給水量	一 日 最大給水量
(円) 43,300,000	平成2. 10	平成3. 4	平成2. 10. 23	(人) 315	(L) 300	(m ³) 94. 5
178,836,000 235,614,000	平成13. 4	平成17. 3	平成13. 3. 29	1,000	315	315
国庫支出金 県支出金	76,075,000 22,822,000	平成13～16				
			(廃止) 平成29. 3. 31			

事業名	主なる工事内容
木舟団地簡易水道事業（創設） （富山県土地開発公社寄付採納）	新設（深井戸 φ200mm×80m）木舟133 （水源施設） 水源さく井 φ200mm×80m 取水ポンプ 1台 滅菌機 1台 配水ポンプ 2台 浄水場上屋 1棟 計装機器 主幹盤 一式 流量計 1基 （配水管）φ50mm～φ100mm 857m （給水施設）φ13mm～φ20mm 48箇所
（南部簡易水道事業に統合）	
一歩二歩団地簡易水道事業（創設） （アルスホーム(株)寄付採納）	新設 （水源施設） 水源さく井 φ250mm×30m 取水ポンプ 1台 滅菌機 2台 配水ポンプ 2台 浄水場上屋 1棟 圧力タンク 1基 計装機器 主幹盤 一式 流量計 1基 （配水管）φ50mm～φ100mm 903.5m （給水施設）φ13mm～φ20mm 67箇所
（南部簡易水道事業に統合）	
南部地区簡易水道事業（創設） 厚生労働省国庫補助事業	統合簡水 （水源施設・建設計画） 水源井戸改良 φ250mm×220m 水源ビット 一式 導水管 取水ポンプ設備 浄水場上屋 1棟 取水場内配管・整備 浄水場門扉・門柵 配水池築造 塩素滅菌設備 場内配管・整備 配水ポンプ設備 電気設備・計装設備 可変電設備 非常用発電設備 中央監視設備 （配水管）φ50mm～φ250mm 56,600m （給水施設）φ13mm～φ50mm （消火栓）φ65mm 単口地下式 180基
（高岡市水道事業に経営統合）	

事業費	着工年月	完工年月	認 可 事 項			
			認可年月日	計画給水 人 口	一人一日 最大給水量	一 日 最大給水量
(円) 22,700,000	昭和59.2	昭和60.3	昭和59.2.24	(人) 208	(L) 200	(m³) 41.6
			(廃止) 平成20.12.24	【南部地区簡易水道事業から給水が開始された日】		
30,442,000	平成7.7	平成7.10	平成8.4.1	240	250	60
			(廃止) 平成20.3.25	【南部地区簡易水道事業から給水が開始された日】		
1,938,000,000	平成17.4	平成28.3	平成16.11.1	4,450	391	1,740
分担金等 国庫支出金 県支出金 起債	33,560,000 645,600,000 96,840,000 1,162,000,000	平成17～28				
			(廃止) 平成29.3.31			

第 2 章

水道施設整備計画

水道
施設
整備
計画

1 第 3 次水道施設整備事業の推移

第 2 章 水道施設整備計画

1. 第3次水道施設整備事業の推移

年 度		平成29年度		平成30年度	
事 業 区 分		事業量	金額（千円）	事業量	金額（千円）
老 朽 管 の 整 備	計 画	2,920 m	274,000	2,750 m	259,000
	実 績	3,230 m	242,680	2,766 m	196,984
基 幹 管 路 の 整 備	計 画	1,200 m	229,000	1,000 m	321,500
	実 績	822 m	189,374	2,229 m	503,150
管 路 の 整 備	計 画	4,930 m	280,900	6,020 m	333,400
	実 績	4,167 m	293,326	3,218 m	274,649
未 普 及 地 域 の 整 備	計 画	950 m	59,900	900 m	58,200
	実 績	764 m	37,954	196 m	12,976
基 幹 施 設 の 整 備	計 画		153,000		
	実 績		122,293		
給 水 管 の ス テ ン レ ス 化	計 画	828 件	194,940	808 件	189,240
	実 績	806 件	198,228	830 件	244,375
消 火 栓 の 整 備	計 画	35 基	14,275	43 基	17,500
	実 績	23 基	12,570	11 基	6,968
事 務 費	計 画		86,157		85,176
	実 績		71,190		72,793
計	計 画	10,000 m	1,292,172	10,670 m	1,264,016
	実 績	8,983 m	1,167,615	8,409 m	1,311,895
財 源 内 訳	地 方 債	計 画		285,000	331,000
		実 績		200,000	250,000
	そ の 他	計 画		125,065	47,620
		実 績		105,207	47,227
	一 般 財 源	計 画		882,107	885,396
		実 績		862,408	1,014,668
	合 計	計 画		1,292,172	1,264,016
		実 績		1,167,615	1,311,895
累積進捗率（%）		計 画	20.9	41.4	
		実 績	18.9	40.2	

令和元年度		令和２年度		令和３年度		計	
事業量	金額（千円）	事業量	金額（千円）	事業量	金額（千円）	事業量	金額（千円）
3,150 m	301,000	2,700 m	245,000	2,700 m	225,000	14,220 m	1,304,000
4,006 m	270,960					10,002 m	710,624
1,000 m	321,500	1,600 m	240,000	500 m	231,500	5,300 m	1,343,500
1,174 m	250,234					4,225 m	942,758
5,500 m	314,400	5,400 m	308,400	5,435 m	310,400	27,285 m	1,547,500
3,118 m	230,496					10,503 m	798,471
600 m	58,200	1,200 m	58,200	1,000 m	58,200	4,650 m	292,700
340 m	18,628					1,300 m	69,558
	10,500		43,000		21,500		228,000
	※ 2,090						124,383
808 件	189,240	808 件	189,240	808 件	189,240	4,060 件	951,900
748 件	252,751					2,384 件	695,354
43 基	17,500	43 基	17,500	43 基	17,500	207 基	84,275
9 基	5,742					43 基	25,280
	79,928		81,208		87,422		419,891
	69,402						213,385
10,250 m	1,292,268	10,900 m	1,182,548	9,635 m	1,140,762	51,455 m	6,171,766
8,638 m	1,100,303					26,030 m	3,579,813
	331,000		308,000		286,000		1,541,000
	230,000						680,000
	63,055		38,707		39,445		313,892
	53,576						206,010
	898,213		835,841		815,317		4,316,874
	816,727						2,693,803
	1,292,268		1,182,548		1,140,762		6,171,766
	1,100,303						3,579,813
	62.4		81.5		100.0		
	58.0						

※「国吉配水場送配水管耐震化基本計画策定業務委託」は配水及び給水費に費目変更（5,561千円）

第 3 章

水 源

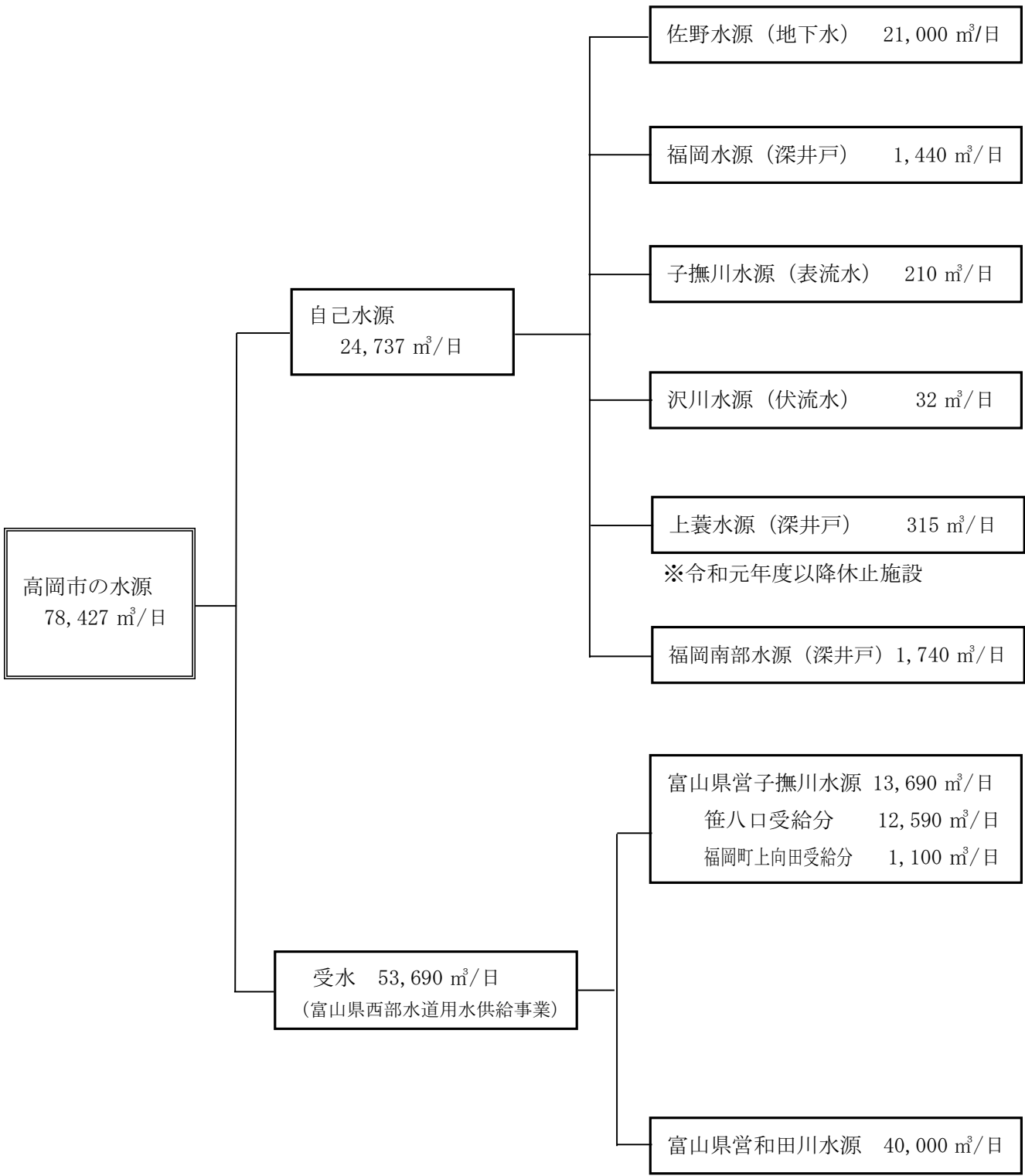
1 水 源

- (1) 高岡市の水源（令和 2 年度）
- (2) 富山県西部水道用水供給事業の水源水量（令和 2 年度）
- (3) 施設別水源水量の推移
- (4) 富山県西部水道用水供給事業における受水単価の実績
- (5) 子撫川水源の協定受給水量

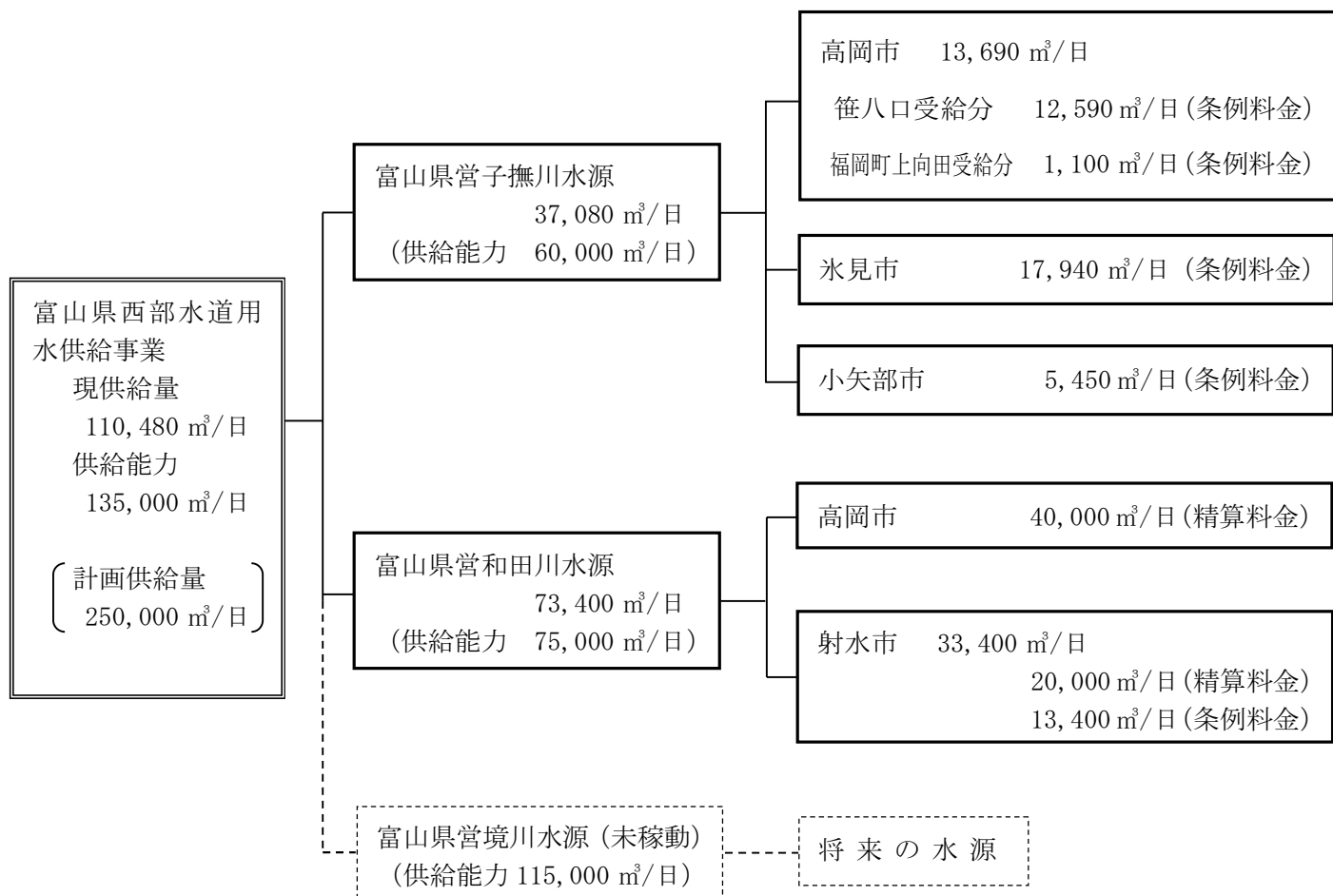
第 3 章 水 源

1. 水 源

(1) 高岡市の水源（令和 2 年度）



(2) 富山県西部水道用水供給事業の水源水量（令和２年度）



※各事業体の条例料金の対象水量は、1日最大受水量を記載。

(3) 施設別水源水量の推移

(単位：m³/日)

年 度	自 己 水 源				県 受 水			合 計
	清水町水源	佐野水源	千保川水源	小 計	和田川水源	子撫川水源	小 計	
昭和6年	9,286	—	—	9,286	—	—	—	9,286
16	11,980	—	—	11,980	—	—	—	11,980
22	16,600	—	—	16,600	—	—	—	16,600
24	19,030	—	—	19,030	—	—	—	19,030
29	17,523	—	3,000	20,523	—	—	—	20,523
31	16,671	—	13,000	29,671	—	—	—	29,671
33	13,320	9,020	10,000	32,340	—	—	—	32,340
35	12,720	18,200	5,000	35,920	—	—	—	35,920
37	11,350	34,320	3,000	48,670	—	—	—	48,670
38	10,500	42,460	—	52,960	—	—	—	52,960
41	8,940	40,320	—	49,260	—	—	—	49,260
43	7,600	38,700	—	46,300	13,300	—	13,300	59,600
45	5,700	35,700	—	41,400	26,600	—	26,600	68,000
47	3,300	35,700	—	39,000	40,000	—	40,000	79,000
49	2,300	35,200	—	37,500	40,000	—	40,000	77,500
54	800	35,000	—	35,800	40,000	5,000	45,000	80,800
56	600	34,700	—	35,300	40,000	8,800	48,800	84,100
57	500	34,500	—	35,000	40,000	8,800	48,800	83,800
58	400	34,300	—	34,700	40,000	8,800	48,800	83,500
59	—	34,100	—	34,100	40,000	8,800	48,800	82,900
60	—	34,500	—	34,500	40,000	9,400	49,400	83,900
61	—	34,500	—	34,500	40,000	10,300	50,300	84,800
62	—	34,500	—	34,500	40,000	10,300	50,300	84,800
63	—	34,500	—	34,500	40,000	11,700	51,700	86,200
平成元年	—	34,500	—	34,500	40,000	11,700	51,700	86,200
2	—	34,500	—	34,500	40,000	13,300	53,300	87,800
3	—	34,500	—	34,500	40,000	13,300	53,300	87,800
4	—	34,500	—	34,500	40,000	14,200	54,200	88,700
5	—	34,500	—	34,500	40,000	14,200	54,200	88,700
6	—	24,000	—	24,000	40,000	15,100	55,100	79,100
7	—	24,000	—	24,000	40,000	15,100	55,100	79,100
8	—	24,000	—	24,000	40,000	13,600	53,600	77,600
9	—	24,000	—	24,000	40,000	13,600	53,600	77,600
10	—	24,000	—	24,000	40,000	15,200	55,200	79,200
11	—	24,000	—	24,000	40,000	15,200	55,200	79,200
12	—	24,000	—	24,000	40,000	15,200	55,200	79,200
13	—	24,000	—	24,000	40,000	15,200	55,200	79,200
14	—	24,000	—	24,000	40,000	15,200	55,200	79,200
15	—	24,000	—	24,000	40,000	15,200	55,200	79,200
16	—	24,000	—	24,000	40,000	15,200	55,200	79,200
17	—	24,000	—	24,000	40,000	15,200	55,200	79,200
18	—	24,000	—	24,000	40,000	15,200	55,200	79,200
19	—	24,000	—	24,000	40,000	15,200	55,200	79,200
20	—	24,000	—	24,000	40,000	14,590	54,590	78,590
21	—	24,000	—	24,000	40,000	14,590	54,590	78,590
22	—	21,000	—	21,000	40,000	14,590	54,590	75,590
23	—	21,000	—	21,000	40,000	13,860	53,860	74,860
24	—	21,000	—	21,000	40,000	13,860	53,860	74,860
25	—	21,000	—	21,000	40,000	13,860	53,860	74,860
26	—	21,000	—	21,000	40,000	13,540	53,540	74,540
27	—	21,000	—	21,000	40,000	13,540	53,540	74,540
28	—	21,000	—	21,000	40,000	13,540	53,540	74,540

(単位：m³/日)

(単位: m³/日)

年 度	自 己 水 源							県 受 水				合 計
	佐野水源	福岡水源	子撫川水源	沢川水源	上蓑水源	福岡南部水源	小 計	和田川水源	子撫川水源		小 計	
									笹八口	福岡町上向田		
平成29年	21,000	1,440	210	32	315	1,740	24,737	40,000	13,540	1,100	54,640	79,377
30	21,000	1,440	210	32	315	1,740	24,737	40,000	12,590	1,100	53,690	78,427
令和元年	21,000	1,440	210	32	315	1,740	24,737	40,000	12,590	1,100	53,690	78,427

(4) 富山県西部水道用水供給事業における受水単価の実績

年 度	和 田 川 水 源 （ 精 算 料 金 ）			子 撫 川 水 源 （ 条 例 料 金 ）		
	協定受水量（m ³ /日）	精算総括費用（円）	精算単価（円）	協定受水量（m ³ /日）	受水費（円）	単価（円）
昭和44年	13,300	51,015,526	10.57	—	—	—
45	26,600	66,879,494	8.04	—	—	—
46	26,600	88,386,361	8.82	—	—	—
47	40,000	102,587,800	8.03	—	—	—
48	40,000	109,874,781	7.54	—	—	—
49	40,000	130,773,474	8.96	—	—	—
50	40,000	143,725,862	9.82	—	—	—
51	40,000	156,694,323	10.73	—	—	—
52	40,000	167,962,854	11.50	—	—	—
53	40,000	172,664,318	11.83	—	—	—
54	40,000	170,144,627	11.62	5,000	73,200,000	40
55	40,000	190,476,172	13.05	5,000	73,000,000	40
56	40,000	199,750,194	13.68	8,800	128,480,000	40
57	40,000	205,339,612	14.06	8,800	160,600,000	50
58	40,000	206,200,397	14.08	8,800	161,040,000	50
59	40,000	218,783,154	14.99	8,800	160,600,000	50
60	40,000	229,343,027	15.70	9,400	205,860,000	60
61	40,000	248,461,314	17.01	10,300	225,570,000	60
62	40,000	245,611,225	16.77	10,300	245,037,000	65
63	40,000	269,338,511	18.45	11,700	277,582,500	65
平成元年	40,000	260,139,149	17.82	11,700	298,935,000	70
2	40,000	289,117,418	19.80	13,300	339,815,000	70
3	40,000	309,468,223	21.14	13,300	365,085,000	75
4	40,000	316,628,676	21.69	14,200	367,441,500	75
5	40,000	325,040,916	22.26	14,200	414,640,000	80
6	40,000	338,060,745	23.15	15,100	389,152,000	80
7	40,000	350,084,026	23.91	15,100	469,761,000	85
8	40,000	365,158,601	25.01	13,600	421,940,000	85
9	40,000	366,043,802	25.07	13,600	446,760,000	90
10	40,000	361,929,727	24.79	15,200	499,320,000	90
11	40,000	400,555,000	27.44	15,200	500,688,000	90
		393,101,901	26.92			
12	40,000	415,996,901	28.49	15,200	499,320,000	90
		388,366,830	26.60			
13	40,000	396,003,928	27.12	15,200	527,060,000	95
		399,136,958	27.34			
14	40,000	405,922,958	27.80	15,200	527,060,000	95
		387,225,437	26.52			
15	40,000	403,467,437	27.63	15,200	528,504,000	95
		412,990,847	28.29			
16	40,000	415,092,847	28.43	15,200	499,320,000	90
		413,320,503	28.31			
17	40,000	421,758,503	28.89	15,200	494,527,500	90
		441,159,398	30.22			
18	40,000	453,072,398	31.03	15,200	471,580,000	85
		407,756,556	27.93			
19	40,000	404,797,556	27.65	15,200	472,872,000	85
		442,692,324	30.24			
20	40,000	425,681,324	29.16	22,100	399,401,250	75
		437,531,955	29.97	14,590		
21	40,000	415,798,000	28.48	22,100	399,401,250	75
		412,698,865	28.27	14,590		
22	40,000	418,790,670	28.68	22,100	399,401,250	75
		401,874,534	27.53	14,590		
23	40,000	404,304,534	27.62	22,100	355,093,200	70
		391,733,113	26.83	13,860		
24	40,000	392,972,113	26.92	22,100	354,123,000	70
		391,136,095	26.79	13,860		
25	40,000	381,189,095	26.11	22,100	354,123,000	70
		394,019,543	26.99	13,860		
26	40,000	353,209,543	24.19	22,100	319,320,300	65
		349,313,987	23.93	13,540		
27	40,000	395,435,987	27.01	22,100	320,190,000	65
		353,136,526	24.12	13,540		
28	40,000	363,681,526	24.91	22,100	319,320,300	65
		384,836,105	26.36	13,540		
29	40,000	375,538,105	25.72	23,100	340,412,800	65
		383,816,338	26.29	14,640		
30	40,000	351,454,338	24.07	23,100	319,988,500	65
		345,724,494	23.68	13,690		
令和元年	40,000	346,397,494	23.66	23,100	320,866,650	65
		—	—	13,690		

※ 子撫川の受水量は、平成20年3月変更分以降から月単位の基本水量（1日最大受水量）が設定された。
上段が協定水量、下段が基本水量。

※ 精算総括費用、受水費及び受水単価には消費税相当額を含まず。

※ 平成29年度以降の子撫川水源には福岡町上向田受給分を含む。

(5) 子撫川水源の協定受給水量

笹八口受給分

(単位：m³/日)

年 度	S54. 4 協定締結	S61. 4 変 更	H3. 4 変 更	H8. 4 変 更	H11. 4 変 更	H14. 3 一部変更	H16. 3 一部変更	H18. 3 一部変更	H20. 3 変 更	H23. 3 変 更	H26. 3 変 更	H30. 3 変 更	単価 (円) (超過単価)
S54年	5,000												40
55	5,000												40
56	11,000												40
57	11,000												50
58	11,000												50
59	17,000												50
60	17,000												60
61	17,000	10,300											60
62	24,000	10,300											65
63	24,000	11,700											65
H元年		11,700											70
2		13,300											70
3		13,300	13,300										75
4		15,100	14,200										75
5		15,100	14,200										80
6		17,100	15,100										80
7		17,100	15,100										85
8		19,400	16,600	13,600									85
9		19,400	16,600	13,600									90
10		22,000	18,200	15,200									90
11		22,000	18,200	15,200	15,200								90
12		24,000	20,000	17,000	15,200								90
13			20,000	17,000	15,200								95
14			21,900	18,900	17,000	15,200							95
15			21,900	18,900	17,000	15,200							95
16			24,000	21,000	18,900	18,900	15,200						90
17				21,000	18,900	18,900	15,200						90
18				22,100	21,000	21,000	21,000	15,200					85
19					21,000	21,000	21,000	15,200					85
20					22,100	22,100	22,100	22,100	22,100				75 (150)
21～22									22,100 14,590				75 (150)
23～25									22,100 13,860				70 (140)
26～29										22,100 13,540			65 (130)
30～R 2												22,100 12,590	65 (130)

※ 平成20年3月変更以降から月単位の基本水量（1日最大受水量）と超過単価が設定された。

受水量：上段 協定水量、下段 基本水量、受水単価：上段 基本単価、下段 超過単価。

※ 平成26～令和2年度の基本水量は、月別基本水量の最大受水量を記載。

令和元年度の月別基本水量

(単位：m³/日)

4月	5月	6月	7月	8月	9月
12,570	12,570	12,570	12,540	12,410	12,410
10月	11月	12月	1月	2月	3月
12,570	12,570	12,590	12,410	12,410	12,570

年間受水量 4,568,540m³ (閏年 4,580,950m³)

福岡町上向田受給分

(単位：m³/日)

年 度	S54. 4 協定締結	S61. 4 変 更	H3. 4 変 更	H8. 4 変 更	H11. 4 変 更	H14. 3 一部変更	H16. 3 一部変更	H18. 3 一部変更	H20. 3 変 更	H23. 3 変 更	H26. 3 変 更	H30. 3 変 更	単価 (円) (超過単価)
S 54年	500												40
55	500												40
56	600												40
57	600												50
58	600												50
59	700												50
60	700												60
61	700	500											60
62	800	500											65
63	800	500											65
H元年		500											70
2		500											70
3		550	500										75
4		550	520										75
5		550	520										80
6		600	550										80
7		600	550										85
8		600	590	800									85
9		700	590	800									90
10		700	640	850									90
11		700	640	850	850								90
12		800	690	900	850								90
13			690	900	850								95
14			740	950	900	850							95
15			740	950	900	850							95
16			800	1,000	950	950	850						90
17				1,000	950	950	850						90
18				1,000	1,000	1,000	1,000	850					85
19					1,000	1,000	1,000	850					85
20					1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	850			75 (150)
21～22									1,000				75 (150)
									850				
23～25										1,000			70 (140)
										810			
26～29											1,000		65 (130)
											1,100		
30～R 2												1,000	65 (130)
												1,100	

※ 平成20年3月変更分以降から月単位の基本水量（1日最大受水量）と超過単価が設定された。

受水量：上段－協定水量、下段－基本水量、受水単価：上段－基本単価、下段－超過単価。

※ 平成26～令和2年度の基本水量は、月別基本水量の最大受水量を記載。

令和元年度の月別基本水量

(単位：m³/日)

4月	5月	6月	7月	8月	9月
900	900	900	960	1,100	1,100
10月	11月	12月	1月	2月	3月
900	900	900	1,100	1,100	900

年間受水量 354,360m³ (閏年 355,460m³)

第 4 章

施 設 の 概 要

1 施設別概要

- | | | |
|-------------|---------------|--------------|
| (1) 佐野取水場 | (11) 西部調圧槽 | (21) 栃丘中継井 |
| (2) 中田配水場 | (12) 能町ポンプ場 | (22) 栃丘配水池 |
| (3) 上関浄水場 | (13) 西田ポンプ場 | (23) 花尾配水池 |
| (4) 国吉配水場 | (14) 頭川ポンプ場 | (24) 小野配水池 |
| (5) 伏木配水場 | (15) 山川第一ポンプ場 | (25) 沢川浄水場 |
| (6) 山川配水場 | (16) 木津取水場 | (26) 上蓑浄水場 |
| (7) 西田配水池 | (17) 清水町配水場 | (27) 福岡南部浄水場 |
| (8) 頭川配水池 | (18) 福岡浄水場 | (28) 本庁舎 |
| (9) 西広谷配水池 | (19) 上向田配水場 | (29) 上関庁舎 |
| (10) 勝木原配水池 | (20) 五位浄水場 | |

2 配水池有効容量

3 導・送・配水管布設状況

- (1) 導・送・配水管管種別総延長
- (2) 導水管延長
- (3) 送水管延長
- (4) 配水管延長

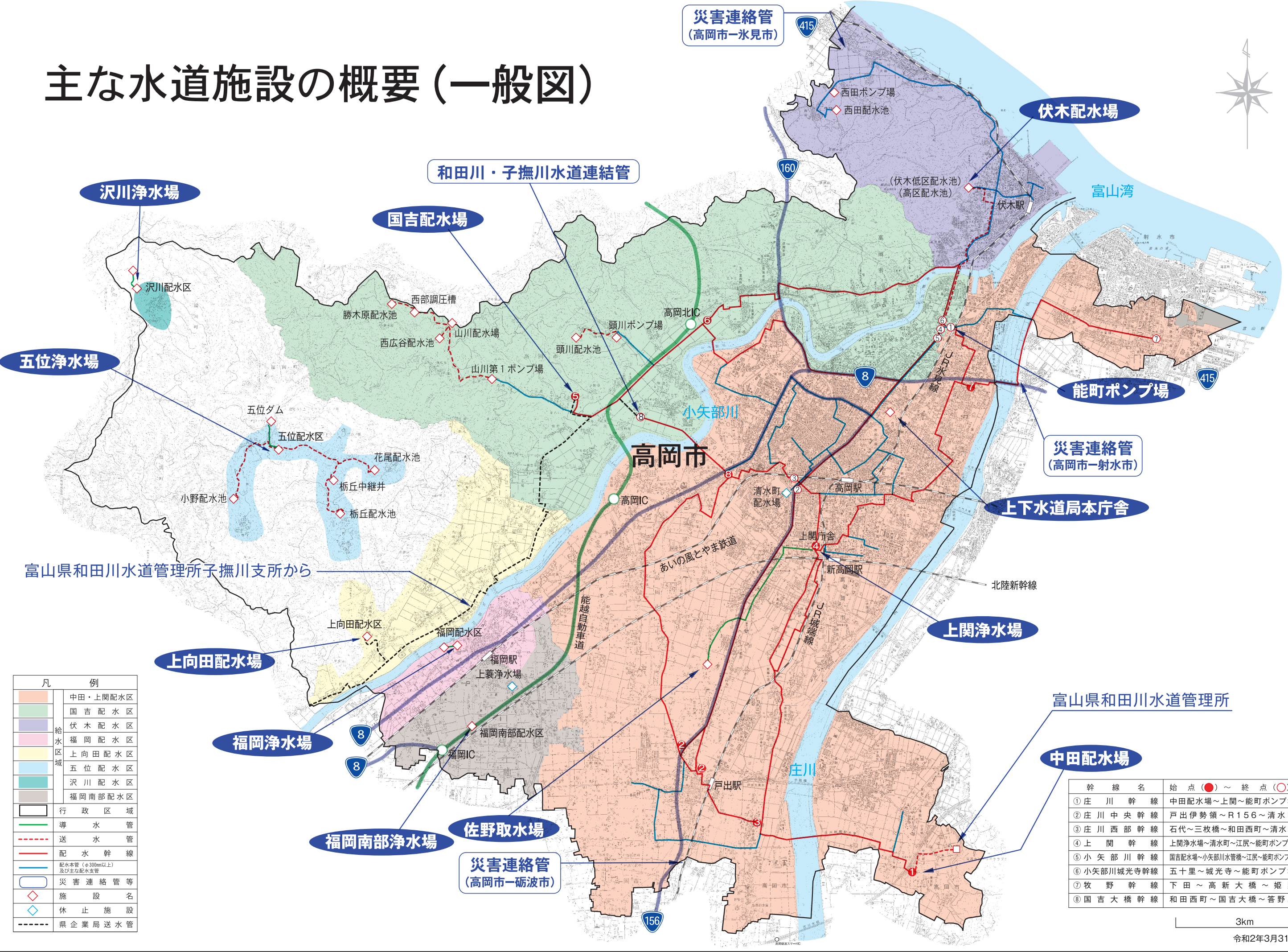
4 給水管布設件数状況

5 震災対策

- (1) 管路全体の耐震化
- (2) 基幹管路の耐震化
- (3) 配水池の耐震化
- (4) 防災関係の備蓄状況

【参考】 旧簡易水道事業資料（福岡町地区）

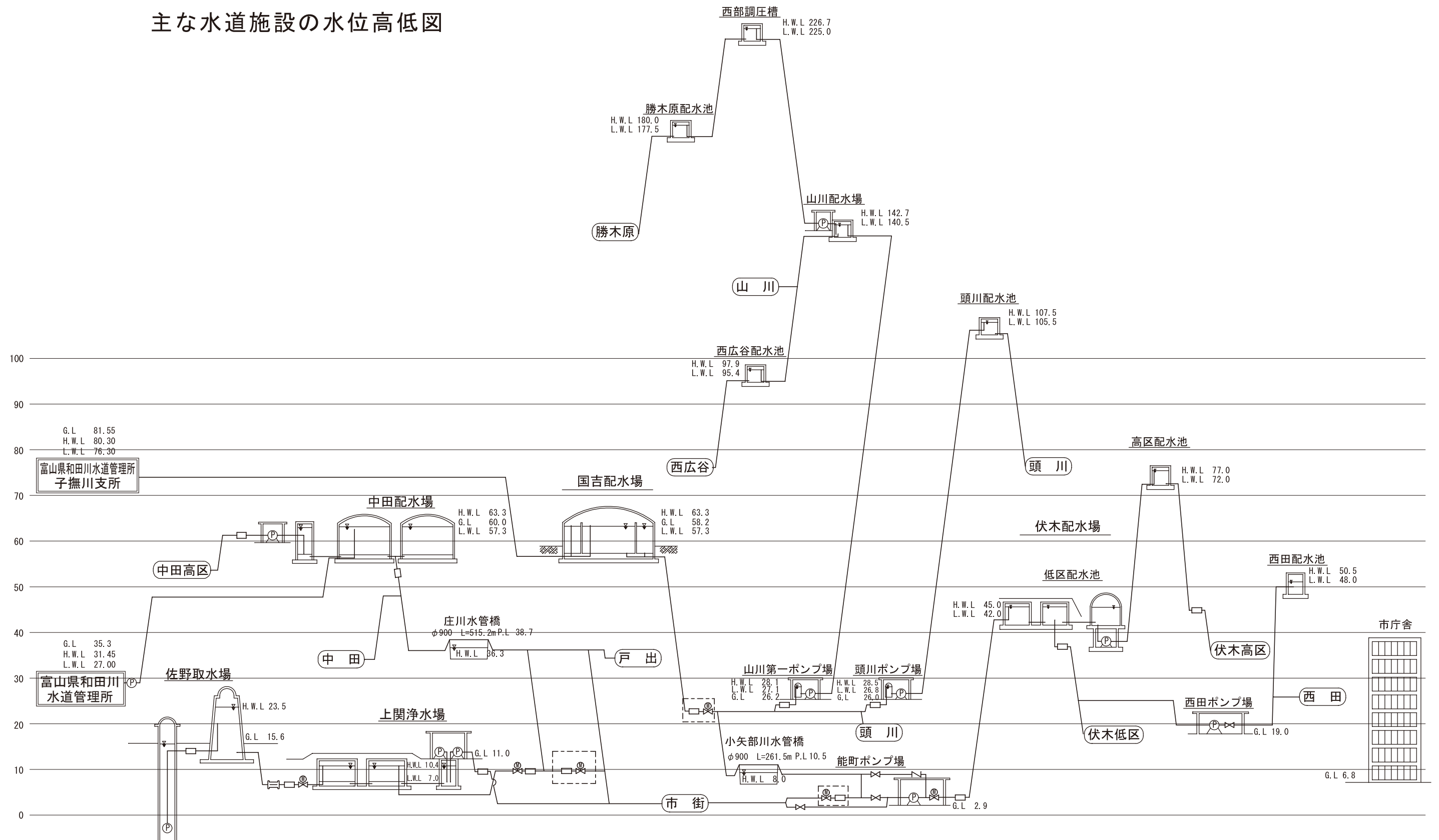
主な水道施設の概要（一般図）



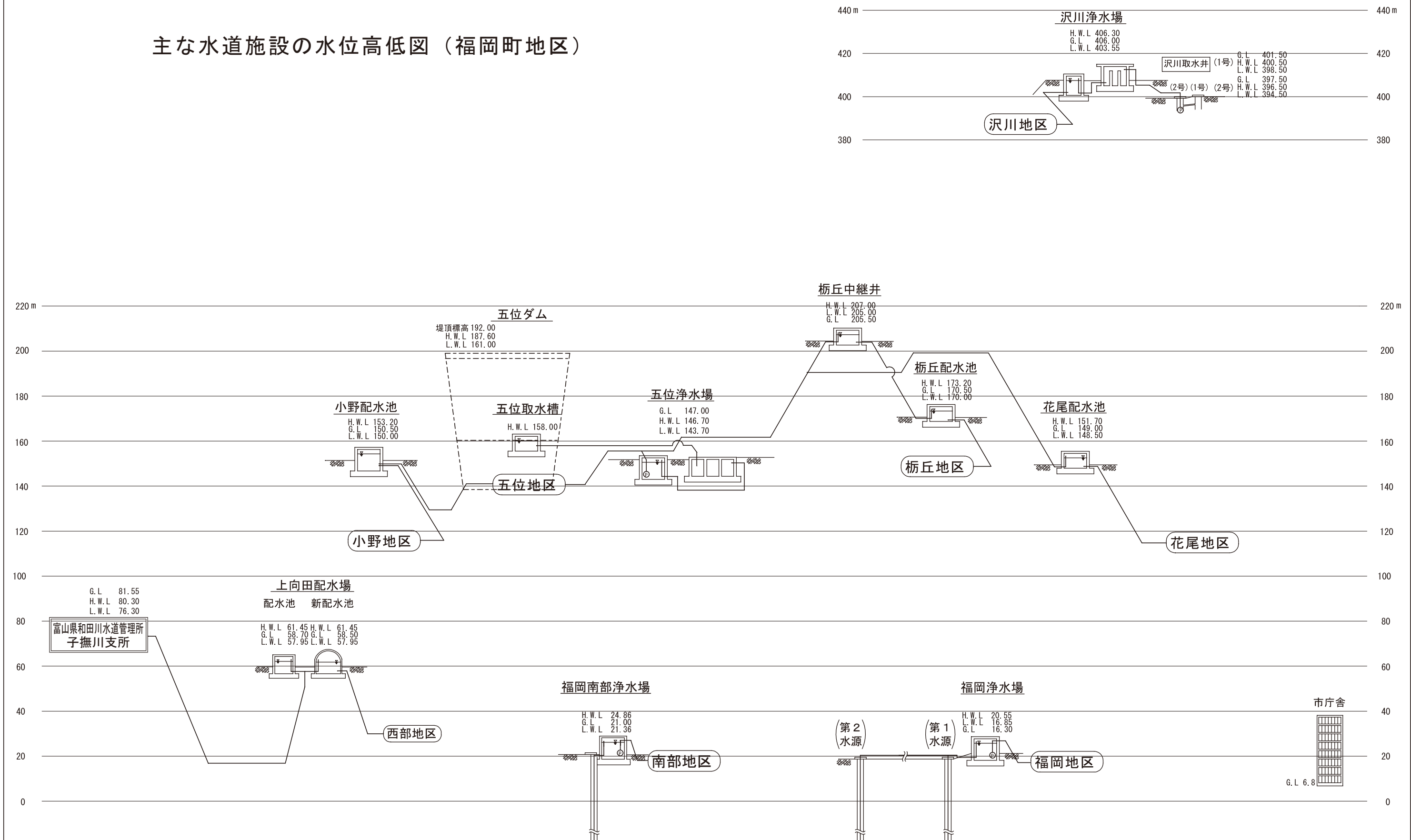
凡	例
	中田・上関配水区
	国吉配水区
	伏木配水区
	福岡配水区
	上向田配水区
	五位配水区
	沢川配水区
	福岡南部配水区
	行政区区域
	導水管
	送水管
	配水幹線
	配水本管（φ300mm以上） 及び主な配水支管
	災害連絡管等
◇	施設名
◇	休止施設
	県企業局送水管

幹線名	始点（●）～終点（○）
① 庄川幹線	中田配水場～上関～能町ポンプ場
② 庄川中央幹線	戸出伊勢嶺～R156～清水町
③ 庄川西部幹線	石代～三枚橋～和田西町～清水町
④ 上関幹線	上関浄水場～清水町～江尻～能町ポンプ場
⑤ 小矢部川幹線	国吉配水場～小矢部川水管橋～江尻～能町ポンプ場
⑥ 小矢部川城光寺幹線	五十里～城光寺～能町ポンプ場
⑦ 牧野幹線	下田～高橋大橋～姫野
⑧ 国吉大橋幹線	和田西町～国吉大橋～答野島

主な水道施設の水位高低図



主な水道施設の水位高低図（福岡町地区）



第 4 章 施 設 の 概 要

1. 施設別概要

(1) 佐野取水場

所 在 地	西藤平蔵281・282		
敷 地 面 積	11,670m ²		
建 設 年 度	昭和31年～昭和38年		
送 水 方 法	自然流下		
施 設 取 水 井 内 径 ・ 深 度 取水ポンプ能力	2号井 4m×19.4m 150A×3.75m ³ /分 ×20m×22KW×1台 200A×5.5m ³ /分 ×20m×30KW×1台	3号井 3m×19.5m 150A×3.75m ³ /分 ×20m×22KW×1台 200A×4.5m ³ /分 ×20m×30KW×1台	4号井 3m×19.5m 200A×4.5m ³ /分 ×20m×30KW×1台
型 式 構 造	水中ポンプ 浅井戸鉄筋コンクリート		
調 圧 槽 内 径 有 効 水 深 有 効 容 量	7m 9.9 m 381m ³		
計 装 機 器	PH計 (0～14) 取水井流量計 (超音波流量計) 水位計 (投込み圧力式) 4台		

(2) 中田配水場

所 在 地	東保新120		
敷 地 面 積	18,518㎡		
建 設 年 度	昭和43年～昭和47年（第3期拡張）		
配 水 方 法	自然流下（市内）		ポンプ加圧（中田高区）
施 設 配 水 池 有 効 容 量 構 造	内径 37.4m×6m 6,500㎥×2池 プレストレストコンクリート HWL63.3m LWL57.3m GL60.0m		・インバータ方式配水ポンプ 能力 100A×0.9㎥/分 ×30m×11KW×2台 型式 うず巻きポンプ ・自家発電装置 ディーゼル発電装置 40KVA（AC200V-60HZ）
緊 急 遮 断 弁	φ900mm油圧式配水用バタフライ弁 1基 φ300mm油圧式配水池連絡用バタフライ弁 1基		
送 水 管 区 間 口 径 管 種 距 離	富山県和田川水道管理所から φ600mm ダクタイル鋳鉄管 鋼管 計 954m 13m 967m		
計 装 機 器	配水流量計（超音波流量計） 高区配水流量計（電磁流量計 φ80mm） 水位計（投込み圧力式）×2台 高区配水圧力計（0～0.5MPa） 水質自動測定装置（濁度・色度・残留塩素）〔上牧野〕		

(3) 上関浄水場

所在地	京田188
敷地面積	18,505m ²
建設年度	昭和34年～昭和38年（第2期拡張）
配水方法	ポンプ加圧
施設 配水池 有効容量 構造 配水ポンプ能力 型式 取水調整弁 圧力調整弁 流入調整弁 消毒設備	34m×39m×3.4m×2池 4,500m ³ ×2池 HWL10.4m LWL7.0m GL11.0m 鉄筋コンクリート インバータ方式 150A×6m ³ /分×35m×55KW×4台 うず巻きポンプ φ350mmバタフライ弁×2基 φ400mmモノバーコントロール弁 φ300mmモノバーコントロール弁 紫外線照射装置（11,000m ³ /日）×2台 次亜塩素酸ナトリウム注入装置（120mL/分）×2台
導水管区間 口径 管種 距離	佐野取水場から φ700mm φ600mm ダクタイル鋳鉄管 鋼管 耐震継手管 計 112m 34m 4,124m 4,270m
計装機器	配水流量計（電磁流量計φ400mm） 和田川水系流量計（電磁流量計φ300mm） 配水池流入流量計（電磁流量計φ150mm） 取水流量計（電磁流量計φ300mm）×2台 残留塩素計（0～2mg/L） 水位計（投込み圧力式） 配水圧力計（0.0～1.0MPa） 圧力調整弁二次圧力計（0.0～1.0MPa） 取水濁度計（0～10度） 圧力調整弁一次圧力計（0.0～1.0MPa）

(4) 国吉配水場

所在地	笹八口字男撲1-2
敷地面積	40,840m ²
建設年度	昭和49年～昭和54年（第4期拡張）
配水方法	自然流下
施設 配水池 有効容量 構造 配水流量調整弁 消毒設備 高架配管	内径 50.6m×6.0m（同心円二重タンク） HWL63.3m LWL57.3m GL58.2m 6,000m ³ ×2槽 プレストレストコンクリート φ600mmインラインスリーブ弁 次亜塩素酸ナトリウム注入装置（60mL/分）×2台 φ900mm 赤色 配水管 φ450mm 銀色 排水管 φ800mm 青色 送水管（富山県企業局） 延長 150m
緊急遮断弁	φ700mm油圧式配水用バタフライ弁 1基
計装機器	配水流量計（電磁流量計φ600mm） 水位計（投込み圧力式）×2台 受水残留塩素計（0～2mg/L） 配水残留塩素計（0～2mg/L） 水質自動測定装置（濁度・色度・残留塩素）〔能町〕

(5) 伏木配水場

所 在 地	伏木一宮17				
敷 地 面 積	12, 205㎡				
建 設 年 度	昭和26年～昭和36年		昭和54年～昭和55年		平成21年
配 水 方 法	自然流下				
施 設 配 水 池 有 効 容 量 送水ポンプ能力 型 式 構 造 自家発電装置	21. 3m×24. 9m×3m×2池 1, 500㎡×2池 (低区) HWL45. 0m LWL42. 0m	内径25. 5m×3m×1池 1, 500㎡×1 池 (低区階層式) HWL45. 0m LWL42. 0m 150A×2. 0㎡/分×41m ×30KW×2台 うず巻きポンプ プレストレストコンクリート ディーゼル発電装置 125KVA (AC220V-60HZ)	10. 0m×10. 0m×5m×2槽 500㎡×2槽 (高区) HWL77. 0m LWL72. 0m 地上式ステンレス鋼板		
緊 急 遮 断 弁	φ 450mm重力式配水用 バタフライ弁 2基 φ 250mm重力式配水池連絡用 バタフライ弁 2基				
送 水 管 区 間 口 径 管 種 距 離	能町ポンプ場から φ 300mm 耐震継手管 8m	φ 400mm 耐震継手管 986m	ダクタイル鋳鉄管 2, 392m	鋼管 330m	計 3, 716m
計 装 機 器	低区配水流量計 (超音波流量計) 高区配水流量計 (超音波流量計) 水位計 (投込み圧力式) ×3台 水位計 (圧力式) 配水残留塩素計 (0～2mg/L) 水質自動測定装置 (濁度・色度・残留塩素) [太田]				

(6) 山川配水場

所在地	山川字大窪569-2
敷地面積	223m ²
建設年度	昭和53年～昭和54年
配水方法	自然流下
送水方法	ポンプ加圧
施設 配水池 有効容量 構造 送水ポンプ能力 型式	6m×3.2m×2.2m×2槽 42m ³ ×2槽 HWL142.7m LWL140.5m 鉄筋コンクリート φ40mm×111L/分×128m ×7.5KW×2台 うず巻きポンプ
送水管区間 口径 管種 距離	山川第一ポンプ場から φ75mm ビニル管 鋳鉄管 計 1,345m 430m 1,775m
計装機器	水位計(投込み圧力式)

(7) 西田配水池

所在地	太田184
敷地面積	借地
建設年度	昭和34年
配水方法	自然流下
施設 配水池 有効容量 構造 計装機器	4.0m×4.0m×2.5m×1池 40m ³ ×1池 HWL50.5m LWL48.0m 鉄筋コンクリート 水位計(投込み圧力式)

(8) 頭川配水池

所在地	頭川字上野3494-2
敷地面積	236㎡
建設年度	昭和54年
配水方法	自然流下
施設 配水池 有効容量 構造	6m×4m×2m×1池 48m³×1池 HWL107.5m LWL105.5m 鉄筋コンクリート
送水管区間 口径 管種 距離	頭川ポンプ場から φ50mm ビニル管 鋼管 計 790m 49m 839m
計装機器	水位計（投込み圧力式）

(9) 西広谷配水池

所在地	山川字大窪771-1
敷地面積	290㎡
建設年度	昭和53年～昭和54年
配水方法	自然流下
施設 配水池 有効容量 構造	6m×3.2m×2.5m×2槽 48m³×2槽 HWL97.9m LWL95.4m 鉄筋コンクリート
計装機器	水位計（投込み圧力式）

(10) 勝木原配水池

所在地	勝木原字棚原146
敷地面積	238㎡
建設年度	昭和53年～昭和54年
配水方法	自然流下
施設 配水池 有効容量 構造	6m×3.2m×2.5m×2槽 48m³×2槽 HWL180.0m LWL177.5m 鉄筋コンクリート
送水管区間 口径 管種 距離	西部調圧槽から φ50mm ポリエチレン管 ビニル管 計 57m 340m 397m
計装機器	水位計（投込み圧力式）

(11) 西部調圧槽

所在地	山川字奥割91-2
敷地面積	68㎡
建設年度	昭和53年～昭和54年
配水方法	自然流下
施設 調圧槽 有効容量 構造	3m×2m×1.7m×1槽 10.2m³×1槽 HWL226.7m LWL225.0m 鉄筋コンクリート
送水管区間 口径 管種 距離	山川配水場から φ50mm ビニル管 鋼管 計 661m 410m 1,071m
計装機器	水位計（投込み圧力式）

(12) 能町ポンプ場（伏木低区送水ポンプ）

所在地	荻布字前向162-5
敷地面積	849㎡
建設年度	昭和19年～昭和24年 昭和45年（建替）
送水方法	ポンプ加圧
施設 送水ポンプ能力 型式 送水流量調整弁 水系連絡調整弁 消毒設備	φ150mm×4.0m³/分×47m ×55KW×3台 うず巻きポンプ φ200mm モノバールコントロール弁 φ300mm モノバールコントロール弁 次亜塩素酸ナトリウム 注入装置（30mL/分）×2台
計装機器	送水流量計（超音波流量計） 水系流量計（電磁流量計 φ200mm） 送水残留塩素計（0～2mg/L） 送水圧力計（0.0～1.0MPa） 水系調整弁二次圧力計（0.0～0.6MPa） 能町一次圧力計（0.0～1.0MPa）

(13) 西田ポンプ場

所在地	太田243
敷地面積	借地
建設年度	昭和34年 平成元年（建替）
送水及び配水方法	ポンプ加圧（送配水）
施設 送配水ポンプ能力 型式 送水流量調整弁	φ80mm×0.5m³/分×43m ×7.5KW×2台 うず巻きポンプ φ75mm コンフロー弁

(14) 頭川ポンプ場

所在地	頭川字上野1992
敷地面積	155㎡
建設年度	昭和54年
送水方法	ポンプ加圧
施設 送水ポンプ能力	φ 40mm×80L/分×97m ×5.5KW×2台
型式	うず巻きポンプ

(15) 山川第一ポンプ場

所在地	山川字道所田151
敷地面積	388㎡
建設年度	昭和53年～昭和54年
送水方法	ポンプ加圧
施設 送水ポンプ能力	φ 40mm×200L/分×146m ×11KW×2台
型式 直結送水エンジン	うず巻きポンプ ディーゼルエンジン 26PS 3600rpm
消毒設備	次亜塩素酸ナトリウム 注入装置 (30mL/分) ×1台

(16) 木津取水場

所在地	木津881	木津555	木津688
敷地面積	555㎡	343㎡	379㎡
建設年度	昭和3年～昭和6年		昭和16年
導水方法	自然流下		
施設 取水井 内径 深 度	1号井 φ 300mm 190m	2号井 φ 300mm 190m	4号井 φ 300mm 90m

※ 平成2年度以降休止施設。

(17) 清水町配水場

所在地	清水町1丁目-7-30		
敷地面積	3,799㎡		
建設年度	昭和3年・昭和24年		
配水方法	ポンプ加圧		
施設 配水池 有効容量 構造	21m×30m×4m×2池 2,500m ³ ×2池 鉄筋コンクリート		
導水管区間 内径 管種 距離	1号井から配水池 φ 300mm 鋳鉄管 1,024m	2号井から配水池 φ 250mm 鋳鉄管 428m	4号井から2号井 φ 250mm 鋳鉄管 330m

※ 平成2年度以降休止施設。

(18) 福岡浄水場

所在地	福岡町荒屋敷303・304	福岡町荒屋敷308-2（福岡第2水源）
敷地面積	546m ²	100m ²
建設年度	昭和50年～昭和51年	平成11年～平成12年
水源	地下水（深井戸）	地下水（深井戸）
取水井	福岡第1水源・1号取水ポンプ	福岡第2水源・2号取水ポンプ
内径・深度	φ300mm×80.0m	φ300mm×149.5m
取水ポンプ能力	100A×1.02m ³ /分 ×25m×11KW×1台	100A×1.20m ³ /分 ×60m×18.5KW×1台
型式	水中うず巻きポンプ	水中うず巻きポンプ
導水管		導水管延長267m（ダクタイル鋳鉄管 φ150mm）
消毒装置	次亜塩素酸ナトリウム注入装置（22.8mL/分）×2台	
配水方法	ポンプ加圧	
ポンプ能力	インバータ方式 65A×0.67m ³ /分×40m×7.5KW×4台	
型式	水中うず巻きポンプ	
自家発電装置	ディーゼル発電装置 85KVA（AC200V－60Hz）	
配水池構造	鉄筋コンクリート 13.25m×5.00m×3.70m×2槽 HWL20.55m LWL16.85m GL16.30m	
有効容量	245m ³ ×2槽	
計装機器	配水流量計（電磁流量計 φ150mm） 配水圧力計（0.0～1.0MPa） 水質自動測定装置（濁度・色度・残留塩素）〔福岡町大野〕	
	配水残留塩素計（0～1mg/L）	

(19) 上向田配水場

所在地	福岡町上向田吉国200-2外	
敷地面積	4,943m ²	
建設年度	昭和53年	平成12年～平成13年
水源	浄水受水：富山県和田川水道管理所 子撫川支所	浄水受水：富山県和田川水道管理所 子撫川支所
管理室	上向田配水池 3.25m×3.25m	上向田新配水池
配水方法	自然流下	
配水池構造	地下埋設鉄筋コンクリート 3.50m×9.00m×3.50m×2槽 HWL61.45m LWL57.95m GL58.70m	プレストレストコンクリート 内径13.50m×3.50m×1池 HWL61.45m LWL57.95m GL58.50m
有効容量	110m ³ ×2槽	500m ³ ×1池
計装機器	配水流量計（電磁流量計 φ150mm） 水質自動測定装置（濁度・色度・残留塩素・水圧）〔福岡町赤丸〕	
緊急遮断弁	φ200mm重力式バタフライ弁	

(20) 五位浄水場

所在地	福岡町五位堀切181（五位取水井）	福岡町五位島崎1405外
敷地面積	18m ²	788m ²
建設年度	昭和54年～昭和55年	昭和54年～昭和55年
水源	ダム水 （五位ダム） 五位取水槽	
水利権	*別記	
導水方法	自然流下 HWL 158.00m	
導水管	導水管延長550m （硬質塩化ビニル管 φ 100mm）	
浄水施設 流入弁 凝集装置 消毒装置		φ 100mm電動開閉機付マディハイバルブ P A C注入装置（22.8mL/分）×2台 前次亜塩素酸ナトリウム注入 装置（22.8mL/分）×2台
混和池 容量 フラッシュミキサ フロック形成池		1.00m×1.00m×2.40m×1池 2.4m ³ 0.75KW×1機
容量 フロキュレータ 沈殿池 容量 消毒装置		1.60m×1.60m×2.40m×1池 HWL150.60m GL150.70m 6.1m ³ 0.4KW×1機
ろ過機 処理能力		2.30m×12.70m×2.00m×1池 58.4m ³ 中後次亜塩素酸ナトリウム注入装置 （22.8mL/分）×2台 内径1680mm×3006mm×2機 462m ³ /日
配水施設 配水方法		ポンプ加圧 （五位・小野方面には、減圧弁設置）
ポンプ能力 型式 自家発電装置		40A×0.20m ³ /分×83m×7.5KW×3台 水中うず巻きポンプ ディーゼル発電装置 40KVA（AC200V－60Hz）
配水池構造		地下埋設鉄筋コンクリート 10.00m×3.70m×3.00m×1池 HWL146.70m LWL143.70m GL147.00m
有効容量		111m ³ ×1池
計装機器	原水濁度計（0～100度） 沈澱水残留塩素計（0～2mg/L） 配水流量計（電磁流量計 φ 75mm） 水質自動測定装置（濁度・色度・残留塩素）[福岡町小野]	高感度配水濁度計（0～100度） 配水残留塩素計（0～2mg/L）

*別記：子撫川に於いて取得している福岡用水の水利権が五位ダムによる用水供給が開始されるに至る時点で、流水占用の権利を放棄。農林水産大臣が取得している五位ダム取水口の水利権に含まれていることを確認。最大取水量は230m³/日

(21) 栢丘中継井

所 在 地	福岡町花尾南谷49
敷 地 面 積	6m ²
建 設 年 度	昭和54年～昭和55年
送 水 方 法	自然流下
中 継 井 構 造	鉄筋コンクリート (1.50m×1.50m×2.00m) HWL207.00m LWL205.00m GL205.50m
送 配 水 管 口 径	送水φ100mm 配水φ100mm

(22) 栢丘配水池

所 在 地	福岡町栢丘上田2841
敷 地 面 積	281m ²
建 設 年 度	昭和54年～昭和55年
配 水 方 法	自然流下
配 水 池 構 造	鉄筋コンクリート 4.75m×3.45m×3.20m×1池 HWL173.20m LWL170.00m GL170.50m
有 効 容 量	52.4m ³ ×1池
送 配 水 管 口 径	送水φ100mm 配水φ150mm
計 装 機 器	配水流量計（電磁流量計φ100mm）

(23) 花尾配水池

所 在 地	福岡町花尾西谷内73
敷 地 面 積	173m ²
建 設 年 度	昭和54年～昭和55年
配 水 方 法	自然流下
配 水 池 構 造	鉄筋コンクリート 4.20m×4.20m×3.20m×1池 HWL151.70m LWL148.50m GL149.00m
有 効 容 量	56.4m ³ ×1池
送 配 水 管 口 径	送水φ75mm 配水φ100mm
計 装 機 器	配水流量計（電磁流量計φ75mm）

(24) 小野配水池

所 在 地	福岡町小野後尾1-2
敷 地 面 積	206m ²
建 設 年 度	昭和55年
配 水 方 法	自然流下
配 水 池 構 造	鉄筋コンクリート 4.70m×4.70m×3.20m×1池 HWL153.20m LWL150.00m GL150.50m
有 効 容 量	70.6m ³ ×1池
送 配 水 管 口 径	送水φ75mm 配水φ100mm
計 装 機 器	配水流量計（電磁流量計φ75mm）

(25) 沢川浄水場

所在地	福岡町沢川上山98-2・98-3 (沢川取水井)	福岡町沢川幕金平等5-10
敷地面積	256㎡	385㎡
建設年度	昭和57年～昭和58年	昭和57年～昭和58年・平成19年
水源	地下水(伏流水)	
取水井	沢川取水井	
内径・深度	沢川水源(ライナープレート・浅井戸) 1号・2号取水ポンプ φ2,000mm×5.5m×2井(1号井・2号井) HWL400.50m LWL398.50m GL401.50m(1号井) HWL396.50m LWL394.50m GL397.50m(2号井)	
取水ポンプ能力	40A×0.27m ³ /分×1.5KW×2台	
型式	水中うず巻きポンプ	
導水管	導水管延長210m(硬質塩化ビニル管φ50)	
浄水施設 着水井 容量 消毒装置 ろ過機 処理能力		0.80m×3.50m×1.30m×1池 3.6m ³ 次亜塩素酸ナトリウム注入装置 (22.8mL/分)×2台 上向性ろ過方式 緩速ろ過池×2基 31.2m ³ /日
配水方法		自然流下
配水池構造		半地下埋設鉄筋コンクリート 3.44m×3.44m×2.75m×2槽 HWL406.30m LWL403.55m GL406.00m 32.5m ³ ×2槽
有効容量		
計装機器		配水流量計(電磁流量計φ100mm) 配水濁度計(0～200度)
	水質自動測定装置(濁度・色度・残留塩素・水圧)[福岡町沢川]	

(26) 上蓑浄水場

所在地	福岡町上蓑16-39	
敷地面積	124㎡	
建設年度	平成2年～平成3年	平成13年～平成14年
水源	地下水(深井戸)	
取水井	上蓑水源・取水ポンプ	
内径・深度	φ250mm×80.0m	
取水ポンプ能力	80A×0.66m ³ /分×35m×5.5KW×1台	
型式	水中うず巻きポンプ	
消毒装置	次亜塩素酸ナトリウム注入装置(22.8mL/分)×2台	
配水方法	ポンプ加圧	
ポンプ能力	インバータ方式	
型式	65A×0.66m ³ /分×45m×11KW×2台 水中うず巻きポンプ	
配水池構造	鉄筋コンクリート 3.00m×5.00m×2.30m×2槽 HWL18.35m LWL16.05m GL18.20m	鉄筋コンクリート 2.20m×1.10m×2.30m×2槽 HWL18.35m LWL16.05m GL18.20m
有効容量	34.5m ³ ×2槽	5.5m ³ ×2槽
計装機器	配水流量計(電磁流量計φ150mm) 配水残留塩素計(0～1mg/L)	配水圧力計(0.0～1.0MPa)

※ 令和元年度以降休止施設。

(27) 福岡南部浄水場

所在地	福岡町大滝1386
敷地面積	2,058m ²
建設年度	平成20年
水源	地下水（深井戸）
取水井 内径・深度	福岡南部水源・取水ポンプ φ250mm×200.0m
取水ポンプ能力 型式	100A×1.208m ³ /分×16m×7.5KW×1台 水中うず巻きポンプ
消毒装置	次亜塩素酸ナトリウム注入装置（22.8mL/分）×2台
配水方法 ポンプ能力 型式 自家発電装置	ポンプ加圧 インバータ方式 100A×0.807m ³ /分×50m×15KW×2台 うず巻きポンプ ディーゼル発電装置 100KVA（AC200V－60Hz）
配水池構造 有効容量	地上式ステンレス鋼板 5.00m×6.00m×3.50m×2槽 HWL24.86m LWL21.36m GL21.00m 105m ³ ×2槽
計装機器	配水流量計（電磁流量計φ150mm） 配水残留塩素計（0～2mg/L） 取水流量計（電磁流量計φ100mm） 配水圧力計（0.0～1.0MPa） 水質自動測定装置（濁度・色度・残留塩素）[福岡町木舟]

(28) 本庁舎

所在地	広小路7-50
延面積	1,343m ²
建設	昭和55年3月完成
構造	鉄筋コンクリート地上3階

(29) 上関庁舎

所在地	京田188
延面積	1,083m ²
建設	昭和51年11月完成
構造	鉄筋コンクリート地上3階

2. 配水池有効容量

配 水 池 名	有 効 容 量	備 考
中田配水池	6,500m ³ × 2池	13,000 m ³ 耐震性能有（耐震補強）
上関配水池	4,500m ³ × 2池	9,000 m ³
国吉配水池	6,000m ³ × 2槽	12,000 m ³ 耐震性能有（耐震補強）
伏木配水池（高区）	500m ³ × 2槽	1,000 m ³ 耐震性能有（更新）
伏木配水池（低区）	1,500m ³ × 3池	4,500 m ³
山川配水池	42m ³ × 2槽	84 m ³
西田配水池	40m ³ × 1池	40 m ³
頭川配水池	48m ³ × 1池	48 m ³
西広谷配水池	48m ³ × 2槽	96 m ³
勝木原配水池	48m ³ × 2槽	96 m ³
福岡配水池	245m ³ × 2槽	490 m ³
上向田配水池	110m ³ × 2槽	220 m ³
上向田新配水池	500m ³ × 1池	500 m ³ 耐震性能有
五位配水池	111m ³ × 1池	111 m ³
栃丘配水池	52.4m ³ × 1池	52.4 m ³
花尾配水池	56.4m ³ × 1池	56.4 m ³
小野配水池	70.6m ³ × 1池	70.6 m ³
沢川配水池	32.5m ³ × 2槽	65 m ³
福岡南部配水池	105m ³ × 2槽	210 m ³ 耐震性能有
合 計	41,639.4 m ³	

※下記の配水池は令和元年度より休止。

上蓑配水池	34.5m ³ × 2槽	69 m ³	
上蓑新配水池	5.5m ³ × 2槽	11 m ³	
合 計		80 m ³	

3. 導・送・配水管布設状況

(1) 導・送・配水管管種別総延長

(単位：m)

管 種 \ 種 別	導 水 管	送 水 管	配 水 管	計	構成比(%)
耐 震 継 手 管	4,170	2,133	252,416	258,719	20.5
ダクタイル鋳鉄管	380	3,494	540,773	544,647	43.3
老 朽 鋳 鉄 管	—	—	1,234	1,234	0.1
鋼 管	140	502	31,486	32,128	2.6
硬質塩化ビニル管	869	8,499	374,940	384,308	30.6
ポリエチレン管	—	63	35,942	36,005	2.9
計	5,559	14,691	1,236,791	1,257,041	100.0

(2) 導水管延長

(単位：m)

管 種 \ 口 径	φ 50mm	φ 100mm	φ 150mm	φ 600mm	φ 700mm	計	構成比(%)
耐 震 継 手 管	—	46	—	4,124	—	4,170	75.1
ダクタイル鋳鉄管	—	—	268	—	112	380	6.8
鋼 管	—	74	32	34	—	140	2.5
硬質塩化ビニル管	253	616	—	—	—	869	15.6
計	253	736	300	4,158	112	5,559	100.0

(3) 送水管延長

(単位：m)

管 種 \ 口 径	φ 50mm	φ 75mm	φ 100mm	φ 300mm	φ 400mm	φ 600mm	計	構成比(%)
耐 震 継 手 管	—	478	—	8	1,647	—	2,133	14.5
ダクタイル鋳鉄管	—	430	—	—	2,110	954	3,494	23.8
鋼 管	450	—	39	—	—	13	502	3.4
硬質塩化ビニル管	1,791	3,580	3,128	—	—	—	8,499	57.9
ポリエチレン管	63	—	—	—	—	—	63	0.4
計	2,304	4,488	3,167	8	3,757	967	14,691	100.0

(4) 配水管延長

管 種 \ 口 径	φ 50mm	φ 75mm	φ 100mm	φ 150mm	φ 200mm	φ 250mm	φ 300mm	φ 350mm
耐 震 継 手 管	—	27, 512	102, 846	67, 244	21, 401	5, 718	10, 080	476
ダ ク タ イ ル 鋳 鉄 管	—	8, 165	179, 134	215, 621	57, 101	24, 681	16, 551	5, 769
老 朽 鋳 鉄 管	—	—	264	80	475	—	304	—
鋼 管	22, 159	465	1, 207	1, 433	1, 192	164	2, 716	61
硬 質 塩 化 ビ ニ ル 管	317, 645	26, 613	19, 671	8, 791	2, 220	—	—	—
ポ リ エ チ レ ン 管	35, 877	37	28	—	—	—	—	—
計	375, 681	62, 792	303, 150	293, 169	82, 389	30, 563	29, 651	6, 306

※ φ 900mm配水管延長に庄川・小矢部川の水管橋の延長含む。

4. 給水管布設件数状況

(単位：件)

管 種	件 数	構成比 (%)
鉛 管	3, 893	5. 7
銅 管	1, 955	2. 9
ス テ ン レ ス 管	40, 319	59. 2
硬 質 塩 化 ビ ニ ル 管	20, 825	30. 6
鋼 管	334	0. 5
そ の 他	762	1. 1
計	68, 088	100. 0

(単位：m)

φ 400mm	φ 450mm	φ 500mm	φ 600mm	φ 700mm	φ 800mm	φ 900mm	計	構成比 (%)
4,309	4,945	3,346	4,509	30	—	—	252,416	20.5
14,909	1,972	172	2,598	6,565	1,158	6,377	540,773	43.7
—	—	48	63	—	—	—	1,234	0.1
128	18	24	—	138	—	1,781	31,486	2.5
—	—	—	—	—	—	—	374,940	30.3
—	—	—	—	—	—	—	35,942	2.9
19,346	6,935	3,590	7,170	6,733	1,158	8,158	1,236,791	100.0

〈参 考〉

水 管 橋	庄 川	φ 900mm	L=515.0m	鋼 管	建設年度	昭和43年度
	小矢部川	φ 900mm	L=261.5m	鋼 管	建設年度	昭和52年度

5. 震災対策

(1) 管路全体の耐震化

	平成30年度	令和元年度
管 路 総 延 長 (再掲)	1, 252, 194 m	1, 257, 041 m
耐 震 化 延 長	293, 223 m	302, 458 m
耐 震 化 率	23. 4 %	24. 1 %

(2) 基幹管路の耐震化

	平成30年度	令和元年度
基 幹 管 路 延 長	108, 138 m	109, 297 m
耐 震 化 延 長	37, 062 m	39, 006 m
耐 震 化 率	34. 3 %	35. 7 %

※ 基幹管路とは、導水管、送水管、配水本管（φ 300mm以上の配水管）を総称したもの。

(3) 配水池の耐震化

	平成30年度	令和元年度
配 水 池 総 有 効 容 量	41, 719 m ³	41, 639 m ³
耐 震 化 有 効 容 量	26, 710 m ³	26, 710 m ³
耐 震 化 率	64. 0 %	64. 1 %

※ 中田配水池、伏木高区配水池、国吉配水池、上向田新配水池、福岡南部配水池は耐震化済。

(4) 防災関係の備蓄状況

(令和2年3月31日現在)

種 別	品 目	規格・仕様	保有数量	備 考
車 両	給水車	2m ³	1台	
	給水タンク積載用トラック		3台	ダンプ2台、平ボディ1台
給水容器	給水タンク	2m ³	5基	ステンレス製4、アルミ製1
	〃	1. 5m ³	1基	アルミ製1
	〃	1m ³	5基	アルミ製1、樹脂製4
	仮設水槽	1m ³	2基	ビニル製2
	飲料水袋	6L	9, 800袋	
直 管	K形鉄管	φ 600～φ 900	3本	
継手類	K形継輪	φ 250～φ 900	13個	
	K形離脱防止金具	φ 250～φ 900	25組	
補修用具	補修用クランプ	φ 250～φ 900	14個	
	フクロジョイント	φ 300～φ 400	3個	

【参考】 旧簡易水道事業資料（福岡町地区）

(1) 管種別総延長

（令和2年3月31日現在）

（単位：m）

種 別 管 種	導 水 管	送 水 管	配 水 管	計	構成比 (%)
耐 震 継 手 管	46	478	29,696	30,220	21.6
ダクタイル鋳鉄管	268	—	27,271	27,539	19.7
鋼 管	106	49	3,032	3,187	2.3
硬質塩化ビニル管	869	5,363	69,284	75,516	53.9
ポリエチレン管	—	—	3,523	3,523	2.5
計	1,289	5,890	132,806	139,985	100.0

(2) 管路口径別総延長

（令和2年3月31日現在）

（単位：m）

口 径 管 種	φ 50mm	φ 75mm	φ 100mm	φ 150mm	φ 200mm	φ 350mm	計	構成比 (%)
耐 震 継 手 管	—	9,315	11,529	8,257	1,119	—	30,220	21.6
ダクタイル鋳鉄管	—	2,999	3,022	16,341	5,177	—	27,539	19.7
鋼 管	2,258	203	492	140	72	22	3,187	2.3
硬質塩化ビニル管	28,837	27,091	18,107	1,481	—	—	75,516	53.9
ポリエチレン管	3,486	37	—	—	—	—	3,523	2.5
計	34,581	39,645	33,150	26,219	6,368	22	139,985	100.0

(3) 震災対策

管路全体の耐震化（令和2年3月31日現在）

管 路 総 延 長	139,985 m
耐 震 化 延 長	33,977 m
耐 震 化 率	24.3 %

基幹管路の耐震化（令和2年3月31日現在）

基 幹 管 路 延 長	7,201 m
耐 震 化 延 長	578 m
耐 震 化 率	8.0 %

※ 基幹管路とは、導水管、送水管、配水本管（φ300mm以上の配水管）を総称したもの。

配水池の耐震化（令和2年3月31日現在）

配 水 池 総 有 効 容 量	1,775.4 m ³
耐 震 化 有 効 容 量	710.0 m ³
耐 震 化 率	40.0 %

※ 上向田新配水池、福岡南部配水池は耐震済。